

2012年度（平成24年度）  
学生による授業評価アンケート  
実施報告書

福山大学 大学教育センター  
教育評価・改善部門

## 目 次

はじめに	1
1. アンケート調査の目的	2
2. アンケート調査の概要	2
3. 調 査 結 果	11
(1) アンケート調査実施状況について	11
(2) 調査結果の内容（学生による授業評価）	12
① 板書の仕方について	12
② 教員の話し方について	12
③ 授業の計画性について	13
④ 授業の開始時刻と終了時刻について	13
⑤ 講義内容を理解しやすくする教員の工夫について	14
⑥ 質問に対する教員の誠意について	14
⑦ 講義内容の難易度について	15
⑧ この科目の授業内容や実施方法への満足度について	15
(3) 調査結果の内容（学生の自己点検）	16
① 授業に対する予習、復習などの自己学習について	16
② 授業に対する集中度について	16
③ 授業への出席状況について	17
④ 授業の受講による知識の深まりについて	17
⑤ 受講時の工夫について	18
⑥ 質問への積極性について	18
⑦ 学修への意欲の高まりについて	19
⑧ 学修の成果について	19
4. アンケート結果に対する学科報告書	20
5. 授業担当教員の報告書	37

## はじめに

福山大学では「地域社会の中核となる職業人の育成」という教育目標の達成に向け、大学全体として、また、それぞれの学部・学科において様々な教育改革に取り組んでいるところである。大学全体としては「福山大学教育システム」を構築し、教育目標を設定して、初年次教育やキャリア教育の整備など全学共通教育の改革に取り組んでいる。また、学部・学科では、それぞれの中目標とカリキュラムとの関係を示すカリキュラム・マップを作成し、学修の道筋を示している。これらは学生が学びやすい教育環境を提供するという観点から重要な取組であるが、教育の基本は日々の講義、演習、実験である。日常の教育の場が学生にとって知的な魅力を感じる場であることが必要条件である。教育の場が不快を感じる場であっては成果を上げることは不可能であり、学生が学びたいことを学べる場でなければ学修意欲を駆り立てることはできない。「学生による授業評価アンケート」は自己評価委員会が平成 16 年度に本学で初めて実施して以来、本学のすべての教員が少なくとも 1 年に 1 度、学生による授業評価を受けている。平成 23 年度より大学教育センターが担当することになり、学生による授業評価だけでなく学生自身の学修の点検も加えたアンケート調査を実施している。授業改善に資する貴重な情報として活用し、教育改善に向けた研鑽を積んでいる。

大学教育センターでは各学部 1 名の委員から構成される教育評価改善部門を設けて担当部門とし、「学生による授業評価アンケート」を実施している。このアンケート調査結果が、教員と学生がそれぞれの目標とする教育と学修の成果向上の機会となることを願っている。

大学教育センター

センター長 松浦 史登

授業評価・改善部門

部門長 山本 寛

委 員 尾田 温俊

委 員 田中 始男

委 員 香川 直己

委 員 森田 哲生

## 1. アンケート調査の目的

学生が主体的に学ぶ授業の展開を目指して、学生が授業をどのように受講し、授業に期待していることを教員が理解し、各教員の授業改善に資するために本アンケートを実施する。また、全学的な教育改革の成果を検討する貴重な資料とする。さらに、学生が自己評価し、自信の学習姿勢を点検して改善に役立てるために本アンケート調査を実施する。

## 2. アンケート調査の概要

### (1) 実施期間

アンケート調査結果を学生にフィードバックする期間を確保するため、それぞれ第 10 回目～11 回目の授業時間の一部を利用して実施した。

前期：平成 24 年 6 月 11 日（月）～6 月 23 日（土）

後期：平成 25 年 12 月 3 日（月）～12 月 15 日（土）

### (2) 調査科目の選定

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）1 人当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針とした。調査を希望する教員については、2 科目以上について調査対象とすることにした。全学で、前期 189 科目（回答数延べ 10,459 名）、後期 109 科目（回答数延べ 5,566 名）、通年で 298 科目（回答数延べ 16,025 名）を対象に調査を行った。調査科目を p.3～p.8 に示した。

### (3) アンケート調査内容

アンケート調査の設問項目は、教員の授業評価に関する 8 項目、学生自身の学習点検に関する 8 項目、合計 16 項目について調査した（p.9 の調査用紙を参照）。各設問に対する回答は、設問項目を強く肯定する回答から強く否定する回答までの 5 つの選択肢より選択することとした。

### (4) 調査結果の集計

アンケート調査の集計作業を外部（リョービシステムズ㈱）に委託した。集計後、各回答数に係数（強く肯定する回答には 5、強く否定する回答には 1）を乗じ全回答数で除すことで、5 段階評価した。強く否定する回答にも係数 1 を与えているため、最高値は 5.0、最低値は 1.0、標準値は 3.0 となる。

### (5) 学生へのフィードバック方法

前期および後期授業のそれぞれ最終回（15 回目）および試験期間中にアンケート調査結果とその対応を学生にフィードバックする期間とした。方法は学科に一任した。

### (6) アンケート実施後の教員による報告書提出

授業担当教員に集計結果返却後、1 ヶ月以内に報告書（p.10 の報告書書式を参照）を学科長に提出し、学科長は学科教員の報告書を取りまとめて大学教育センター長に提出することになっている。

### (7) アンケート実施後の学科による総括

年度末に前期および後期の調査結果を踏まえて学科単位で総括し、学科長から大学教育センター長に提出することになっている。

平成24年度(前期) 授業評価アンケート実施科目一覧

学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜日	時 限	受講者数
経 済	経 済	向井 昇	非常勤	生活設計・税基礎 I	1230331	月	1	72
経 済	経 済	掛江正造	教 授	マクロ経済学 I	1125271	月	2	114
経 済	経 済	岡谷良二	講 師	ミクロ経済学 I	1125251	木	2	47
経 済	経 済	亀岡 章	非常勤	不動産・相続基礎 I	1230350	火	4	66
経 済	経 済	上迫 明	准教授	商法 I	1220550	水	1	220
経 済	経 済	佐々木 宏	非常勤	スポーツ社会学	1240370	水	2	48
経 済	経 済	佐藤健次	非常勤	リスク管理・金融基礎 I	1230550	水	4	53
経 済	経 済	田邊一洋	非常勤	スポーツとメディア I	1240840	木	1	45
経 済	経 済	佐藤 剛	非常勤	情報ビジネス論	1270090	木	2	61
経 済	経 済	幸田洋子	非常勤	FP実技基礎 I	1230570	木	4	85
経 済	経 済	入谷 純	教 授	財政学 I	1220100	火	4	109
経 済	経 済	溝淵 裕	非常勤	憲法 I	1220510	金	2	87
経 済	経 済	勝矢倫生	非常勤	日本経済史 I	1220470	金	2	105
経 済	経 済	李 森	教 授	労働経済論 I	1120490	火	1	31
経 済	経 済	相原正道	准教授	スポーツ経営学	1240550	木	1	51
経 済	経 済	鳥谷部 茂	非常勤	市民生活と法	120550	金	3	147
経 済	国際経済	馬 成三	教 授	中国経済論 I	1260290	木	4	112
経 済	国際経済	内海 香	非常勤講師	通関実務 II	1260260	木	2	26
経 済	国際経済	富士 彰夫	教 授	アメリカ経済論 I	1125470	木	1	66
経 済	国際経済	古島 義雄	教 授	国際経済学	1220120	水	2	61
経 済	国際経済	尾田 温俊	教 授	E U経済論 I	1260270	水	3	47
経 済	国際経済	鍋島 正次郎	准教授	備後地場産業論	1220770	水	3	49
経 済	国際経済	足立 浩一	准教授	アジア・太平洋経済論	1260420	水	3	59
経 済	国際経済	賈 保華	客員教授	中国経済特論 I	1260310	月	1	47
経 済	国際経済	植田 讓	非常勤講師	旅行業法	1260010	月	2	9
経 済	国際経済	中村 博	准教授	国際学	1230670	月	3	86
経 済	国際経済	中川 洋一	非常勤講師	国際関係論 I	1126340	月	3	20
経 済	国際経済	井上 矩之	教 授	地域開発論 I	1220200	木	2	25
経 済	税務会計	泉 潤慈	教 授	税法概論 I	1250250	月	3	65
経 済	税務会計	伊藤 祐一	教 授	情報処理 I	1116002	水	1	35
経 済	税務会計	許 サイ	准教授	基礎簿記 I	1210091	木	1	39
経 済	税務会計	桑原哲也	教 授	国際経営論 I	1260330	月	3	11
経 済	税務会計	小林正和	准教授	プレゼンテーション I	1270131	木	3	66
経 済	税務会計	鶴崎健一	准教授	衛生学	1240110	水	1	20
経 済	税務会計	古市雄一郎	講 師	会計学総論 I	1250190	火	3	54
経 済	税務会計	池下泰宏	非常勤講師	税務会計 I	1250120	火	3	17
経 済	税務会計	古賀智敏	非常勤講師	監査論 I	1250330	木	3	17
経 済	税務会計	小林陽治	非常勤講師	商業簿記 II	1250020	月	1	46
経 済	税務会計	荒木純子	非常勤講師	簿記論演習 II	1250070	木	2	14
人間文化	人間文化	磯貝淳一	准教授	日本語学概論 1	2120410	木	2	41
人間文化	人間文化	引野亨輔	准教授	日本の歴史と文化 1	2120470	木	2	39
人間文化	人間文化	引野亨輔	准教授	日本近世の政治と文化 1	2120800	水	2	44
人間文化	人間文化	山代宏道	教 授	情報文化史	2122310	金	4	14
人間文化	人間文化	西田 正	教 授	日英比較文化	2122340	火	3	19
人間文化	人間文化	青木美保	教 授	日本文学史	2121150	水	3	32
人間文化	人間文化	重迫隆司	准教授	現代芸術とサブカルチャー論	2120380	金	3	32
人間文化	人間文化	田中久男	教 授	英米の文化と思想	2120530	火	4	18
人間文化	心 理	野津山希	助 教	心と健康	140710	火	1	129
人間文化	心 理	藤居尚子	講 師	心と健康				
人間文化	心 理	山崎理央	准教授	臨床心理学	2320120	木	2	35
人間文化	心 理	青野篤子	教 授	社会心理学	2110150	火	2	41
人間文化	心 理	橋本優花里	准教授	認知心理学	2320160	木	1	44
人間文化	メディア情報文化	阿部純	助 教	情報社会とコミュニケーション	2110830	月	4	35

学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜日	時限	受講者数
人間文化	メディア情報文化	中尾 公 塚下一男	非常勤講師	マスメディア論	2123120	火	2, 3	15
人間文化	メディア情報文化	宮地 克昌	客員教授	イベントプロデュース論	2123140	集	中	24
人間文化	メディア情報文化	大塚 勉	非常勤講師	プリントメディア制作(基礎)	2123230	金	1, 2	22
人間文化	メディア情報文化	水越 敏行	客員教授	マルチメディア教育論	2123270	集	中	9
人間文化	メディア情報文化	熊谷 武洋	非常勤講師	ゲーム制作	2123480	金	3, 4	24
人間文化	メディア情報文化	森脇 澄司	非常勤講師	アナウンス	2123490	金	3	13
人間文化	メディア情報文化	三宅正太郎	教 授	メディアと認知	2123560	木	3	25
人間文化	メディア情報文化	内垣戸貴之	講師	eラーニング論	2123570	木	4	28
工 学	電子・ロボット工	栗延俊太郎	教授	デジタルシステムⅠ	3121220	金	4	18
工 学	電子・ロボット工	田中 聡	准教授	通信工学	3120440	木	1	22
工 学	電子・ロボット工	沖 俊任	准教授	ものづくり加工法	3121260	木	2	17
工 学	電子・ロボット工	伍賀正典	講師	ロボット制御	3121380	水	1	8
工 学	電子・ロボット工	玉木 清	非常勤	CADⅠ	3120890	月	2	20
工 学	電子・ロボット工	中山恭秀	非常勤	ロボティクス概論Ⅰ	3.1E+07	集	中	25
工 学	電子・ロボット工	高橋智隆	客員	ロボティクス概論Ⅱ	3.1E+07	集	中	25
工 学	電子・ロボット工	横井一仁	客員	ロボティクス概論Ⅲ	3.1E+07	集	中	25
工 学	建築・建設	富田武満	教授	土質力学演習Ⅰ	3220250	月	2	10
工 学	建築・建設	宮内克之	教授	コンクリート工学Ⅱ	3220440	金	2	8
工 学	建築・建設	梅田眞三郎	教授	水理学Ⅰ	3220061	月	1	8
工 学	建築・建設	松本 静夫	教授	西洋建築史	3320140	月	1	43
工 学	建築・建設	宮地 功	教授	建築積算	3321800	水	2	22
工 学	建築・建設	大島秀明	教授	建築計画Ⅱ	3320110	水	2	35
工 学	建築・建設	田辺和康	教授	地学	3010290	木	1	64
工 学	建築・建設	寺井雅和	准教授	構造力学Ⅱ	3220140	水	2	50
工 学	建築・建設	水上 優	准教授	設計製図演習Ⅰ	3320040	月	3, 4	41
工 学	建築・建設	藤原美樹	講師	デザイン論	3310010	水	2	25
工 学	建築・建設	酒井 要	助教	情報処理	3310110	木	3	42
工 学	建築・建設	南宏一	客員教授	力学	3310100	木	4	50
工 学	建築・建設	古江嘉弘	客員教授	建築環境工学Ⅰ	3320200	木	3	38
工 学	建築・建設	鎌田輝男	客員教授	建築防災工学	3321	水	3	15
工 学	建築・建設	中山昭夫	客員教授	建築一般構造	3321	金	2	42
工 学	建築・建設	上野谷実	客員教授	入門数学Ⅱ	3010	水	5	10
工 学	情報工	清水光	教授	専門英語	3010332	木	4	38
工 学	情報工	清水光	教授	情報工学入門(情報化社会と倫理)	3420940	火	4	57
工 学	情報工	占部逸正	教授	論理回路	3421360	火	4	47
工 学	情報工	占部逸正	教授	基礎数学Ⅰ	3010041	水	3	43
工 学	情報工	服部進	教授	オペレーションズリサーチ	3420460	木	3	43
工 学	情報工	新谷敏朗	准教授	データ構造とアルゴリズムⅠ	3421240	金	1	38
工 学	情報工	宮崎光二	講師	UNIX入門	3420970	木	4	45
工 学	情報工	片桐重和	助教	Webプログラミング	3420860	水	3	36
工 学	情報工	中嶋健明	非常勤	Webデザイン	3420880	集	中	36
工 学	機械システム工	靄崎 展	教授	メカニカルデザイン	3520760	月	2	30
工 学	機械システム工	布施 守雄	教授	環境自動車工学	3520510	月	4	22
工 学	機械システム工	野西 利次	教授	要素設計学	3521250	水	3	35
工 学	機械システム工	真鍋圭司	教授	材料力学Ⅰ	3520220	金	1	41
工 学	機械システム工	坂口勝次	教授	熱力学	3521260	月	2	43
工 学	機械システム工	木村純壮	教授	工業数学Ⅱ	3010073	金	3	23
工 学	機械システム工	小林正明	講師	自動車整備工学	3520870	月	3	28
工 学	機械システム工	中東潤	講師	デジタルデザイン	3521290	金	2	27
生命工	生物工	藤田 泰太郎	教 授	微生物育種学	4120080	水	2	26
生命工	生物工	秦野 琢之	教 授	微生物培養工学	4121490	木	2	35
生命工	生物工	原口 博行	教 授	植物栄養生理学	4120870	月	2	40
生命工	生物工	岩本 博行	教 授	天然物化学	4120470	月	1	32

学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜日	時 限	受講 者数
生命工	生物工	広岡 和丈	准教授	化学II	3010190	金	2	39
生命工	生命栄養科	淵上倫子	教授	フードコーディネート論	4220900	木	2	25
生命工	生命栄養科	渡邊 誠	教授	疾患学総論	4210150	木	1	42
生命工	生命栄養科	井ノ内直良	教授	食品科学	4210180	金	2	60
生命工	生命栄養科	木村安美	教授	科学英語A	4010140	火	2	30
生命工	生命栄養科	石崎 由美子	准教授	栄養マネジメント	4. 2E+07	火	2	37
生命工	生命栄養科	石井香代子	准教授	食と健康	150800	火	3, 4	7
生命工	生命栄養科	平松智子	准教授	臨床栄養学Ⅱ	4221000	月	1	38
生命工	生命栄養科	高橋知佐子	准教授	ライフステージ別栄養学	4220810	月	2	45
生命工	海洋生物科	高村克美	教授	動物組織学	4321180	月	2	78
生命工	海洋生物科	北口博隆	准教授	暮らしと微生物	4310010	火	1	76
生命工	海洋生物科	水上雅晴	助教	魚類生理学	4320770	水	1	90
生命工	海洋生物科	三輪泰彦	教授	生化学	4320130	水	2	75
生命工	海洋生物科	谷口順彦	客員教授	魚類育種とバイオテクノロジー	4321290	集 中		83
生命工	海洋生物科	宮崎信之	客員教授	海産哺乳類学	4320730	集 中		42
生命工	海洋生物科	臼井洋輔	非常勤講師	博物館概論	4321370	集 中		80
生命工	海洋生物科	濱田 宣	非常勤講師	視聴覚教育メディア論	9005200	集 中		54
生命工	海洋生物科	天野かおり	非常勤講師	生涯学習概論	9005100	集 中		56
生命工	海洋生物科	柴原直樹	非常勤講師	博物館資料論	9005070	金	3	58
生命工	海洋生物科	西田清徳	非常勤講師	水族館学	9960	集 中		40
薬 学	薬 学	数野 博	非常勤講師	ファーマシューティカルケア（プログラム15）	5121410	水	3, 4	14
薬 学	薬 学	杉原成美	教授	疾病の予防	5120640	金	4	104
薬 学	薬 学	金尾義治	教授	薬物の臓器への到達と消失	5130760	金	1	87
薬 学	薬 学	村上 信行	教授	社会保障制度と薬剤経済 1	5. 1E+07	水	2	102
薬 学	薬 学	五郎丸 剛	准教授	社会保障制度と薬剤経済 2	5. 1E+07	水	2	102
薬 学	薬 学	秦 季之	准教授	物質の構造I	5130030	火	2	98
薬 学	薬 学	堤 広之	助教	薬学英語 I	5110240	木	3	93
薬 学	薬 学	宇野 勝次	教授	骨・関節、アレルギー・免疫疾患と薬物治療	5120900	火	2	108
薬 学	薬 学	廣瀬順造	教授	実感する化学	110650	木	1	76
薬 学	薬 学	廣瀬順造	教授	生体分子の立体構造	5130050	金	1	99
薬 学	薬 学	田中哲郎	教授	DDS	5120870	水	1	104
薬 学	薬 学	土谷大樹	講師	生体機能調節	5130480	水	2	99
薬 学	薬 学	井上敦子	教授	消化器疾患と薬物治療	5. 1E+07	土	1	93
薬 学	薬 学	石津 隆	教授	医薬品管理	5121380	木	2	110
薬 学	薬 学	福長将仁	教授	薬学英語	5130480	木	Ⅲ	98
薬 学	薬 学	岡村信幸	教授	薬になる動植物	5130230	金	2	104
薬 学	薬 学	田村 豊	教授	人体の構造と機能 I	5130410	木	1	103
薬 学	薬 学	鶴田泰人	教授	薬局方収載の試験法	5130100	水	1	92
薬 学	薬 学	大西 正俊	助教	ファーマシューティカルケア総合演習	5121210	木	3, 4	24
薬 学	薬 学	富田 久夫	教授	製剤材料の性質	5130770	木	3	89
薬 学	薬 学	井上裕文	准教授	化学物質の検出と定量	5130040	木	2	96
薬 学	薬 学	藤岡晴人	教授	官能基と構造解析	5130250	水	1	97
薬 学	薬 学	田淵紀彦	講師	生体防御 I	5130510	木	2	107
薬 学	薬 学	松岡 浩史	助教	遺伝子を操作する	5120520	月	1	89
薬 学	薬 学	松井 隆司	客員教授	バイオ医薬品とゲノム情報	5120	木	4	87
薬 学	薬 学	吉富博則	教授	薬物動態Ⅱ	5120860	木	1	107
薬 学	薬 学	大橋一慶	教授	化学の基礎A	34202	水	1	100
薬 学	薬 学	江藤精二	教授	悪性腫瘍と患者情報	5120880	月	1	109
薬 学	薬 学	森田哲生	教授	生命活動を担うタンパク質	5130440	火	1	96
薬 学	薬 学	日比野俐	教授	医薬品開発Ⅱ	5361	金	3	108
薬 学	薬 学	藤岡晴人	教授	ターゲット分子の合成	5172	金	1	100
薬 学	薬 学	金尾義治	教授	薬物動態の解析 I	4192	木	1	106
大学教育センター		小野 太幹	准教授	数理科学	0110252	火	2	42
大学教育センター		J. R. Brabec	講師	英会話(I)	1931025	月	2	48

学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜日	時 限	受講 者数
大学教育センター		J. F. Nazzaro	講師	英会話(I)	1931024	金	4	42
大学教育センター		L. A. Gibbons	講師	英会話(I)	1931002	月	2	42
大学教育センター		山口 昌宏	講師	数理科学	0110250	水	2	21
大学教育センター		瀬島 紀夫	講師	情報処理(I)	1116008	火	4	56
大学教育センター		丹藤 浩二	客員教授	文明環境論	0130250	火	1	23
大学教育センター		橋本 裕之	客員教授	日本民族論	0131600	集	中	20
大学教育センター		碓 智樹	非常勤	倫理学(1)	0140400	火	4	71
大学教育センター		藤本 明成	非常勤	陶芸	0150300	火	3	25
大学教育センター		金川 洋臣	非常勤	書道	0150101	水	3	30
大学教育センター		菅波 眞吾	非常勤	剣道(1)	0151100	金	2	20
大学教育センター		和田 文雄	非常勤	人文地理(1)	0130410	木	3	165
大学教育センター		吉崎 暢洋	非常勤	憲法(1)	0120100	金	1	347
大学教育センター		大村 浩	非常勤	柔道(1)	0150900	水	4	59
大学教育センター		石井 成人	非常勤	フランス語(1)	0190510	火	3	113
大学教育センター		神野 靖子	非常勤	音楽	0150400	木	2	11
大学教育センター		渋谷 清	非常勤	絵画	0150250	火	4	16
大学教育センター		金元 文学	非常勤	中国語(I)	1906102	水	3	37
大学教育センター		佐藤 りえこ	非常勤	日本語表現法	1307315	月	4	54
大学教育センター		田中 健	非常勤	哲学(1)	0140100	水	3	119
大学教育センター		劉 国彬	非常勤	中国語(I)	1906108	月	3	45
大学教育センター		柴原 直樹	非常勤	日本史(1)	0130101	金	3	121
大学教育センター		末葭 敏久	非常勤	中国語(I)	1906104	火	3	55
大学教育センター		渡邊 誠	非常勤	日本史(1)	0130104	月	3	156
大学教育センター		的場 千尋	非常勤	体育(1)	0150601	火	3	25
大教センター	経 済	大久保 勲	客 員	中国語(I)	1906103	水	1	22
大教センター	人間文化	三浦 省五	客 員	英語(I)	1902101	水	2	36
大教センター	人間文化	篠田 昭夫	非常勤	英語(I)	1902104	木	2	68
大教センター	人間文化	青木 美保	教 授	日本語表現法	1307318	火	3	34
大教センター	人間文化	磯貝 淳一	准教授	日本語表現法1	1307301	水	2	37

#### 平成24年度(後期) 授業評価アンケート実施科目一覧

学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜日	時 限	受講 者数
経 済	経 済	筒本和弘	教 授	WebデザインⅡ	1270070	水	3	76
経 済	経 済	三川 敦	准教授	経済数学Ⅰ	1220453	月	2	27
経 済	経 済	吉田卓史	准教授	スポーツ理論Ⅱ	1240050	木	4	24
経 済	経 済	石丸敬二	准教授	情報処理Ⅱ	1210043	火	2	42
経 済	経 済	磯崎紀夫	非常勤	不動産・相続応用Ⅱ	1230620	火	3	36
経 済	経 済	若林 暁	非常勤	スポーツ救急技法	1241050	木	2	38
経 済	経 済	門田正久	非常勤	スポーツ救急技法	1241051	木	2	38
経 済	経 済	平田宏二	教 授	地方財政論Ⅱ	1220380	水	2	47
経 済	経 済	坂本和文	教 授	保健体育科教育法Ⅱ	9002830	水	3	6
経 済	経 済	塚原一郎	准教授	金融論Ⅱ	1220090	木	1	114
経 済	経 済	岩見孝之	非常勤	リスク管理・金融応用Ⅱ	1230640	火	2	11
経 済	経 済	宮田朋恵	非常勤	国語表現法Ⅱ	1210020	月	2	38
経 済	経 済	町田余理子	非常勤	民法Ⅱ	1220540	木	3	108
人間文化	人間文化	原 千史	准教授	ドイツ語表現法2	2110570	火	1	19
人間文化	人間文化	川地洋一	教 授	教育制度論	121600	木	4	102
人間文化	人間文化	碓智樹	併 任	ヨーロッパと日本の思想2	2120400	火	3	44
人間文化	人間文化	佐藤昭嗣	非常勤	日本古代の社会と文化2	2120770	木	1	20
人間文化	人間文化	三村泰臣	非常勤	日本芸能論	2121170	金	4	12
人間文化	人間文化	柴原直樹	非常勤	博物館経営・情報論	2121280	金	2	44
人間文化	人間文化	狩野充徳	非常勤	東アジアの歴史と文化2	2120520	金	3	22



学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜日	時限	受講者数
人間文化	人間文化	佐藤和博	非常勤	イベント演習Ⅱ	2110470	水	4	26
人間文化	人間文化	岡 晃弘	教 授	言語学概論	2110280	木	1	58
人間文化	心 理	樋町美華	講 師	教育相談	2320410	木	1	73
人間文化	心 理	平 伸二	教 授	犯罪心理学	2320340	木	2	33
人間文化	心 理	川人潤子	助 教	学習心理学	2320360	金	3	84
人間文化	心 理	日下部典子	准教授	カウンセリング論	2320010	水	3	37
人間文化	心 理	堤俊彦	教 授	障害者心理学	2320040	水	2	43
人間文化	メディア情報文化	田中始男	教 授	基礎情報処理Ⅱ	2210060	木	2	21
人間文化	メディア情報文化	渡辺浩司	准教授	マルチメディア論	2220430	火	1	74
人間文化	メディア情報文化	杉本達應	講 師	色彩論	2123190	月	4	64
人間文化	メディア情報文化	藤森 益弘	客員教授	広告制作	2123460	火	2, 3	29
人間文化	メディア情報文化	松田 教道	非常勤講師	コンピュータミュージック	2123720	水	3	32
工 学	電子・ロボット工	香川直己	教 授	回路理論Ⅰ	3120040	火	1	36
工 学	電子・ロボット工	三谷康夫	教 授	音声認識・音声合成	3121430	水	2	16
工 学	電子・ロボット工	三谷康夫	教 授	音響工学	3120830	水	2	1
工 学	電子・ロボット工	三宅 雅保	教 授	半導体工学	3121080	金	2	9
工 学	電子・ロボット工	溝上浩司	客員教授	組込みプログラミング	3121310	水	2	6
工 学	電子・ロボット工	高橋智隆	客員教授	機械運動学	3121000	金	3	30
工 学	電子・ロボット工	横井一仁	客員教授	機械運動学	3121000	金	3	30
工 学	電子・ロボット工	長井弘志	非常勤講師	機械運動学	3120000	金	3	30
工 学	建築・建設	大島秀明	教 授	建築計画Ⅱ	3320110	水	2	35
工 学	建築・建設	大島秀明	教 授	居住地計画	3320780	月	2	30
工 学	建築・建設	宮内克之	教 授	コンクリート工学Ⅱ	3220440	金	2	8
工 学	建築・建設	中村雅樹	助 教	橋梁工学	3220450	火	3	7
工 学	建築・建設	古江嘉弘	客員教授	建築環境工学Ⅱ	3320210	木	4	19
工 学	建築・建設	鎌田輝男	客員教授	構造系技術ⅠA	3321830	木	2	34
工 学	建築・建設	酒井 要	助 教	情報処理	3310110	木	3	42
工 学	建築・建設	酒井 要	助 教	情報処理	3210010	月	2	5
工 学	情報工	尾関 孝史	教 授	オペレーティングシステム	3430340	水	3	39
工 学	情報工	千葉 利晃	教 授	デジタル信号処理	3420130	月	3	32
工 学	情報工	樽谷 昭彦	非常勤講師	コンピュータグラフィックス	3420380	火	2	36
工 学	機械システム工	矢田 順三	非常勤講師	熱エネルギー工学	3521270	金	3	24
工 学	機械システム工	木村純壮	教 授	システム制御入門	3520240	木	4	22
工 学	機械システム工	小林正明	講 師	電気工学概論	3520300	月	3	26
工 学	機械システム工	小林正明	講 師	電気工学概論	3520301	金	3	27
工 学	機械システム工	中東潤	講 師	機械材料学	3520060	水	1	60
生命工	生物工	山口 泰典	教 授	動物機能利用学	4121510	木	2	39
生命工	生物工	山本 寛	教 授	酵素利用工学	4120650	水	1	37
生命工	生物工	久富 泰資	教 授	基礎微生物学	4120480	金	2	40
生命工	生物工	松崎 浩明	教 授	遺伝子工学	4120200	木	1	34
生命工	生物工	太田 雅也	教 授	生物有機化学	4010210	木	1	46
生命工	生物工	佐藤 淳	講 師	地球環境科学	4120780	月	2	61
生命工	生物工	壺井 基夫	併任教授	細胞生物学	4121020	月	1	39
生命工	生物工	池田 達哉	客員教授	植物分子育種学	4120190	土	1	40
生命工	生物工	今井 俊治	客員教授	植物栽培技術	4120950	金	3・4	32
生命工	海洋生物科	山岸 幸正	講 師	生物多様性とその保全	4321631	水	1	89
生命工	海洋生物科	伏見 浩	教 授	海洋の生物資源	4321280	月	1	83
生命工	海洋生物科	南 卓志	教 授	魚類の行動と生理	4321190	火	1	82
生命工	海洋生物科	沖増 英治	教 授	生理学	4320550	火	2	82
生命工	海洋生物科	西田 清徳	客員教授	水族館論	4320721	集 中		80
生命工	海洋生物科	倉掛 昌裕	教 授	食品安全管理学	4220323	木	2	38
生命工	海洋生物科	河原 栄二郎	教 授	魚病学概論	4321200	金	1	56
生命工	海洋生物科	阪本 憲司	准教授	魚類の繁殖	4321240	金	2	65
生命工	海洋生物科	渡辺 伸一	講 師	海洋動物の行動と生理	4321341	金	1	82

学 部	学 科	教員名	職名	授 業 科 目 名	講義番号	曜 日	時 限	受講者数
生命工	海洋生物科	柴原 直樹	非常勤	博物館資料論	9005070	金	3	58
生命工	海洋生物科	天野 かおり	非常勤	生涯学習概論	9005100	集	中	56
生命工	海洋生物科	谷口 順彦	客員教授	魚類育種とバイオテクノロジー	4321290	集	中	83
生命工	海洋生物科	宮崎 信之	客員教授	海産哺乳類学	4320730	集	中	42
生命工	海洋生物科	濱田 宣	非常勤	視聴覚教育メディア論	9005200	集	中	54
生命工	海洋生物科	臼井 洋輔	非常勤	博物館概論	4321370	集	中	80
生命工	生命栄養科	里内 清	教 授	食品分析化学	4220050	金	1	40
生命工	生命栄養科	菊田安至	教 授	生化学Ⅱ	4210081	火	1	53
生命工	生命栄養科	山本英二	教 授	食品物性学	4221140	火	2	37
生命工	生命栄養科	石井香代子	准教授	フードシステムマネジメントⅠ	4220800	木	1	41
生命工	生命栄養科	石井香代子	准教授	食と健康	150801	火A週	3, 4	12
生命工	生命栄養科	村上泰子	講 師	臨床栄養学Ⅰ	4220960	月	1	41
薬 学	薬 学	石津 隆	教 授	官能基の性質・反応・合成	5130220	水	2	106
薬 学	薬 学	町支 臣成	教 授	有機化合物の骨格と性質	5130210	火	1	102
薬 学	薬 学	西尾 廣昭	教 授	血液・造血器系疾患と薬物治療	5130730	水	1	92
薬 学	薬 学	椎木 滋雄	非常勤講師	血液・造血器系疾患と薬物治療	5130731	水	1	92
薬 学	薬 学	片山博和	教 授	剤形をつくる	5130781	火	2	90
薬 学	薬 学	金尾義治	教 授	薬物動態の解析Ⅰ	5130740	木	1	91
薬 学	薬 学	金尾義治	教 授	薬学英语Ⅱ	5110250	水	1	94
薬 学	薬 学	澁谷博孝	教 授	天然物化学	5130280	金	3	94
薬 学	薬 学	小嶋英二郎	准教授	化学物質の分析、臨床応用	5130090	金	2	97
薬 学	薬 学	佐藤 英治	教 授	調剤	5120770	金	1	93
薬 学	薬 学	上敷領 淳	助 教	食品衛生	5130611	金	2	86
薬 学	薬 学	田中哲郎	教 授	薬学英语Ⅱ	5110254	水	1	95
薬 学	薬 学	本屋敷 敏雄	准教授	生体エネルギー	5130460	月	2	97
薬 学	薬 学	岡村信幸	教 授	漢方薬物Ⅱ	5130240	月	2	103
薬 学	薬 学	赤崎 健司	教 授	生命体の基本単位としての細胞	5130431	木	2	100
薬 学	薬 学	日比野 俐	教 授	医薬品開発Ⅱ	5131110	金	3	87
薬 学	薬 学	道原明宏	准教授	化学物質の生体への影響	5130620	木	3	89
薬 学	薬 学	塩見 浩人	教 授	神経・精神疾患と薬物治療	5130810	月	2	88
薬 学	薬 学	塩見 浩人	教 授	薬物作用の基礎	5120720	火	1	1
薬 学	薬 学	塩見 浩人	教 授	薬物作用の基礎	5130720	火	1	97
大学教育センター		L. A. Gibbons	講 師	英会話(1)	1931002	月	2	42
大学教育センター		J. F. Nazzaro	講 師	英会話(1)	1931024	金	4	42
大学教育センター		橋本 裕之	客員教授	日本民俗論	131600	集	中	20

## 学生による授業評価と自己点検アンケート

この科目の授業に関する次の質問の回答として最も適切な選択肢の ☐ にしを  
はつきりと記入してください。

【質問1】 教員の板書の仕方は適切ですか？（板書をほとんどしなかった授業では、パワ  
ポイントやテキストなど板書に代わるものは適切ですか？）

- ☐ 適切である ☐ ほぼ適切である ☐ 不適切である ☐ どちらとも言えない  
☐ やや不適切である ☐ 不適切である

【質問2】 教員の話し方は明瞭ですか？（聞き取りやすいですか？）

- ☐ 聞き取りやすい ☐ ほぼ聞き取りやすい ☐ どちらとも言えない  
☐ やや聞き取りにくい ☐ 大変聞き取りにくい

【質問3】 授業はシラバス通りに行われていますか？

- ☐ 行われている ☐ ほぼ行われている ☐ どちらとも言えない  
☐ やや異なっている ☐ 全く異なっている ☐ シラバスを読んでいない

【質問4】 教員は、授業の始まる時刻と終る時刻を守っていますか？

- ☐ 守っている ☐ ほぼ守っている ☐ どちらとも言えない  
☐ やや守っていない ☐ 守っていない

【質問5】 教員は、講義内容を理解しやすくする工夫をしていると思いますか？

- ☐ 思う ☐ やや思う ☐ どちらとも言えない ☐ あまり思わない ☐ 全く思わない

【質問6】 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？

- ☐ 誠意をもって答える ☐ ほぼ誠意をもって答える ☐ どちらとも言えない  
☐ やや誠意が感じられない ☐ 誠意が感じられない

【質問7】 この科目の難易度はやりがいや手応えを感じるものですか？

- ☐ 大いに感じる ☐ やや感じる ☐ どちらとも言えない  
☐ あまり感じない ☐ 全く感じない

【質問8】 この科目の授業内容や実施方法に対する総合的なあなたの満足度を5段階で示してください。

- ☐ 満足 ☐ ほぼ満足 ☐ どちらとも言えない ☐ やや不満である ☐ 不満

【質問9】 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？

- ☐ 必ず行う ☐ ほぼ行う ☐ ときどき行う  
☐ あまり行わない ☐ 全く行わない

【質問10】 授業中に私語、居眠り、別のことを考えること等はありますか？

- ☐ 全くない ☐ ほとんどない ☐ どちらとも言えない  
☐ しばしばある ☐ 毎回ある

【質問11】 授業には特別な事情を除き、出席していますか？

- ☐ 全出席 ☐ ほぼ出席 ☐ ときどき欠席する  
☐ 欠席が多い ☐ 欠席が大変多い

【質問12】 この科目を受講して、あなたの知識は深まっていますか？

- ☐ 大いに深まっている ☐ やや深まっている ☐ どちらとも言えない  
☐ あまり深まっていない ☐ 全く深まっていない

【質問13】 あなたは、ノートの取り方、講話の聴き方など、講義内容を理解しやすくする工夫や配慮を自発的に行っていますか？

- ☐ 積極的に行っている ☐ かなり行っている ☐ 行おうとしている  
☐ あまり意識していない ☐ 全く意識していない

【質問14】 授業内容について、質問したいと思うことはありますか？また、実際に質問しますか？

- ☐ しばしば質問する ☐ ときどき質問する ☐ 質問はあるがほとんど質問していない  
☐ 質問したいことがあまりない ☐ 質問すべきことがみつからない

【質問15】 この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？

- ☐ 大いに思う ☐ やや思う ☐ どちらとも言えない  
☐ あまり思わない ☐ 全く思わない

【質問16】 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。

- ☐ 十分に成果があがっている ☐ 少し成果があがっている ☐ どちらとも言えない  
☐ あまり成果があがっていない ☐ 全く成果があがっていない

この授業について、特に意見があれば表面の自由記述欄に記入してください。

# 平成23年・前期 授業評価・自己点検アンケート結果に対する報告書

担当教員	氏 名	所 属	受講者数
		学部 学科	
講 義 名		科目分類(○で囲む)	名
		共通教育科目 専門基礎科目 専門科目	

## ◆アンケート結果の学生へのフィードバック方法

--

## ◆この講義に対する学生の評価結果について（アンケートの質問1～質問8が該当します）

○高く評価された事項

--

○改善を求められている事項

--

○今後の授業改善の計画

--

## ◆この講義を受講した学生の自己点検結果について（アンケートの質問9～質問16が該当します）

○学習成果という点でこの結果をどのように考えますか

--

○学生の学習成果を望ましい方向に進展させる方策はありますか

--

### 3. 調 査 結 果

「学生による授業評価アンケート」の集計結果は各科目、学科、学部、全学の単位で集計しており、それぞれの責任者に報告している。本報告書に全てを掲載すると膨大な内容となるため、学部、および全学の単位について掲載することにした。また、平成 25 年度から大学教育センターに教学 I R (Institutional Research) 部門が設置される予定である。「学生による授業評価アンケート」の集計データから得られる教育改善に向けた提言は、教学 I R 部門に委ね、本報告書では調査結果の傾向を報告することにする。

#### (1) アンケート実施状況について

このアンケート調査は授業時間の一部を利用して、配布した設問用紙に回答後に回収しており、比較的高い回収率を得ることができた。平成 24 年度前期 (表 1-1)、後期 (表 1-2)、および通年 (表 1-3) のアンケート回収率は、全学でそれぞれ 77.4%、後期は 78.2%、通年で 77.7%であった。学部間で比較すると薬学部の回答率が通年度で 89.4%と高い回収率を示したが、生命工学部では前期の回収率が 62.0%と低かった。生命工学部には回収率の向上に向けた改善を求めたい。

表1-1 学生による授業評価アンケート(前期) <回収率について>

学 部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
受講者数	10,583	2,332	812	1,303	1,188	2,987	1,961
回答者数	8,194	1,614	628	937	737	2,766	1,512
回答率	77.4%	69.2%	77.3%	71.9%	62.0%	92.6%	77.1%

表1-2 学生による授業評価アンケート(後期) <回収率について>

学 部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
受講者数	5,816	589	870	718	1,750	1,785	104
回答者数	4,547	400	628	541	1,387	1,502	89
回答率	78.2%	67.9%	72.2%	75.3%	79.3%	84.1%	85.6%

表1-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <回収率について>

学 部	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
受講者数	16399	2921	1682	2021	2938	4772	2065
回答者数	12741	2014	1256	1478	2124	4268	1601
回答率	77.7%	68.9%	74.7%	73.1%	72.3%	89.4%	77.5%

## (2) 調査結果の内容（学生による授業評価結果について）

### ① 板書法について

表 2-1、2-2、2-3 に示すように、教員の板書法はすべての学部で高く評価されている。全学の評価平均は通年で 4.16 であり、経済学部後期の評価平均は 4.47 という高い評価であった。このことから、板書法については、概ね改善が図られていると評価することができる。ただし、一部の科目については改善を強く求められているものも存在した。

表2-1 学生による授業評価アンケート(前期) <板書法について>

学 部	回 答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 1】板書法 教員の板書の仕方は適切ですか？	適切である	5	3431	749	327	315	302	1167	571
	ほぼ適切である	4	3027	545	220	377	253	1029	603
	どちらともいえない	3	1219	218	63	166	120	400	252
	やや不適切である	2	347	62	11	51	44	128	51
	不適切である	1	165	39	7	28	18	40	33
	平均点		4.12	4.18	4.35	3.96	4.05	4.14	4.08

表2-2 学生による授業評価アンケート(後期) <板書法について>

学 部	回 答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 1】板書法 教員の板書の仕方は適切ですか？	適切である	5	2134	235	318	262	619	657	43
	ほぼ適切である	4	1654	130	196	222	503	564	39
	どちらともいえない	3	521	25	77	40	162	211	6
	やや不適切である	2	165	6	21	12	69	56	1
	不適切である	1	73	4	16	5	34	14	0
	平均点		4.23	4.47	4.24	4.34	4.16	4.19	4.39

表2-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <板書法について>

学 部	回 答		全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 1】板書法 教員の板書の仕方は適切ですか？	適切である	5	5565	984	645	577	921	1824	614
	ほぼ適切である	4	4681	675	416	599	756	1593	642
	どちらともいえない	3	1740	243	140	206	282	611	258
	やや不適切である	2	512	68	32	63	113	184	52
	不適切である	1	238	43	23	33	52	54	33
	平均点		4.16	4.24	4.30	4.10	4.12	4.16	4.10

### ② 話し方について

教員の話し方はすべての学部で高く評価されている（表 3-1、3-2、3-3）。全学の平均評価は通年で 4.16 であった。このことから、板書法については、概ね改善が図られていると評価することができる。ただし、一部の科目については改善を強く求められているものも存在した。

表3-1 学生による授業評価アンケート 回収率(前期) <話し方について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 2】話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	3679	761	375	303	344	1289	607
	ほぼ聞き取りやすい	4	2822	513	191	356	238	976	548
	どちらともいえない	3	961	182	29	158	86	288	218
	やや聞き取りにくい	2	541	104	28	89	52	167	101
	大変聞き取りにくい	1	191	54	5	31	17	46	38
	平均点		4.13	4.13	4.44	3.87	4.14	4.19	4.05

表3-2 学生による授業評価アンケート(後期) <話し方について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 2】話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	2238	231	351	270	662	687	37
	ほぼ聞き取りやすい	4	1512	131	180	216	438	518	29
	どちらともいえない	3	439	19	51	40	149	164	16
	やや聞き取りにくい	2	274	15	28	12	109	105	5
	大変聞き取りにくい	1	83	3	18	3	29	28	2
	平均点		4.22	4.43	4.30	4.36	4.15	4.15	4.06

表3-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <話し方について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 2】話し方 教員の話し方は明瞭ですか？	聞き取りやすい	5	5917	992	726	573	1006	1976	644
	ほぼ聞き取りやすい	4	4334	644	371	572	676	1494	577
	どちらともいえない	3	1400	201	80	198	235	452	234
	やや聞き取りにくい	2	815	119	56	101	161	272	106
	大変聞き取りにくい	1	274	57	23	34	46	74	40
	平均点		4.16	4.19	4.37	4.05	4.15	4.18	4.05

### ③ 授業の計画性について

授業の計画性はすべての学部で高く評価されており、本学における授業がシラバスに基づいて実施されていると評価できる（表 4-1、4-2、4-3）。しかしながら、シラバスを読んでいないという回答が 25.3%存在（表 4-3）することは、問題点として指摘される。

表4-1 学生による授業評価アンケート(前期) <計画性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 3】計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	3050	723	254	292	282	979	520
	ほぼ行われている	4	2274	467	185	316	234	587	485
	どちらとも言えない	3	737	163	38	121	64	159	192
	やや異なっている	2	63	15	8	6	13	5	16
	全く異なっている	1	39	14	1	7	6	1	10
	シラバスを読んでいない	0	2021	228	142	194	135	1033	289
	平均点		4.34	4.35	4.41	4.19	4.29	4.47	4.22

表4-2 学生による授業評価アンケート(後期) <計画性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 3】計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	1736	190	251	190	514	544	47
	ほぼ行われている	4	1203	116	181	145	408	325	28
	どちらとも言えない	3	349	23	51	52	127	91	5
	やや異なっている	2	37	2	3	2	24	4	2
	全く異なっている	1	21	1	6	3	10	1	0
	シラバスを読んでいない	0	1196	67	134	149	303	536	7
	平均点		4.37	4.48	4.36	4.32	4.29	4.46	4.46

表4-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <計画性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 3】計画性 授業はシラバス通りに行われていますか？	行われている	5	4786	913	505	482	796	1523	567
	ほぼ行われている	4	3477	583	366	461	642	912	513
	どちらとも言えない	3	1086	186	89	173	191	250	197
	やや異なっている	2	100	17	11	8	37	9	18
	全く異なっている	1	60	15	7	10	16	2	10
	シラバスを読んでいない	0	3217	295	276	343	438	1569	296
	平均点		4.35	4.38	4.38	4.23	4.29	4.46	4.23

### ④ 授業時間について

授業時間については、ほぼ全ての授業で厳守されており評価平均は 4.51 であった。「守っている」と「ほぼ守っている」を併せると 91.7%であった（表 5-1、5-2、5-3）。よって本学における授業は開始時間と終了時間が厳密に守られていると評価することができる。

表5-1 学生による授業評価アンケート(前期) <時間について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 4】時間 教員は、授業の始まる時刻と終る時刻を守っていますか？	守っている	5	5121	1110	433	522	452	1761	843
	ほぼ守っている	4	2431	406	167	322	228	819	489
	どちらとも言えない	3	414	63	17	64	27	125	118
	やや守っていない	2	150	23	10	16	23	40	38
	守っていない	1	69	11	1	11	7	16	23
	平均点		4.51	4.60	4.63	4.42	4.49	4.55	4.38

表5-2 学生による授業評価アンケート(後期) <時間について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 4】時間 教員は、授業の始まる時刻と終る時刻を守っていますか？	守っている	5	2944	261	410	390	872	969	42
	ほぼ守っている	4	1156	106	156	116	350	397	31
	どちらとも言えない	3	252	20	29	26	95	75	7
	やや守っていない	2	117	9	20	5	42	32	9
	守っていない	1	74	3	13	4	26	28	0
	平均点		4.49	4.54	4.48	4.63	4.44	4.50	4.19

表5-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <時間について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 4】時間 教員は、授業の始まる時刻と終る時刻を守っていますか？	守っている	5	8065	1371	843	912	1324	2730	885
	ほぼ守っている	4	3587	512	323	438	578	1216	520
	どちらとも言えない	3	666	83	46	90	122	200	125
	やや守っていない	2	267	32	30	21	65	72	47
	守っていない	1	143	14	14	15	33	44	23
	平均点		4.51	4.59	4.55	4.50	4.46	4.53	4.37

## ⑤ 講義の工夫について

担当教員の講義の工夫については、全学では 4.10 と高い評価平均であるが、設問項目の中では比較的低い評価であった（表 6-1、6-2、6-3）。また、学部間での評価に違いが認められた。工学部の評価が最も低く改善の余地が残されている。

表 6-1 学生による授業評価アンケート(前期) <講義の工夫について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 5】講義の工夫 教員は、講義内容を理解しやすくする工夫をしていると思いますか？	思う	5	3359	716	345	268	299	1190	541
	やや思う	4	2593	447	176	323	220	902	525
	どちらとも言えない	3	1649	322	82	234	163	514	334
	あまり思わない	2	465	101	20	85	46	126	87
	全く思わない	1	118	27	5	26	9	29	22
	平均点		4.05	4.07	4.33	3.77	4.02	4.12	3.98

表 6-2 学生による授業評価アンケート(後期) <講義の工夫について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 5】講義の工夫 教員は、講義内容を理解しやすくする工夫をしていると思いますか？	思う	5	2115	206	301	268	627	664	49
	やや思う	4	1413	107	183	180	407	512	24
	どちらとも言えない	3	748	65	93	75	251	250	14
	あまり思わない	2	211	18	35	15	77	64	2
	全く思わない	1	52	3	15	3	22	9	0
	平均点		4.17	4.24	4.15	4.28	4.11	4.17	4.35

表 6-3 学生による授業評価アンケート 回収率 (前期/後期) <講義の工夫について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 5】講義の工夫 教員は、講義内容を理解しやすくする工夫をしていると思いますか？	思う	5	5474	922	646	536	926	1854	590
	やや思う	4	4006	554	359	503	627	1414	549
	どちらとも言えない	3	2397	387	175	309	414	764	348
	あまり思わない	2	676	119	55	100	123	190	89
	全く思わない	1	170	30	20	29	31	38	22
	平均点		4.10	4.10	4.24	3.96	4.08	4.14	4.00

## ⑥ 質問への誠意について

学生からの質問への誠意については、全学では 4.26 と高い評価平均であった（表 6-1、6-2、6-3）。この結果から、教員は誠意をもって答えていると評価できる。一部の教員から質問にきた学生がいなくても関わらず、誠意が感じられないという回答があり、この設問方法に対する疑問が提起されている。設問内容に改善の必要がある。

表 7-1 学生による授業評価アンケート(前期) <質問への誠意について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	3904	869	388	396	398	1263	590
	ほぼ誠意をもって答える	4	2483	459	159	330	225	829	481
	どちらとも言えない	3	1615	245	71	176	97	627	399
	やや誠意が感じられない	2	87	21	3	16	9	17	21
	誠意が感じられない	1	82	13	5	19	6	19	20
	平均点		4.23	4.34	4.47	4.14	4.36	4.20	4.06

表 7-2 学生による授業評価アンケート(後期) <質問への誠意について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	2402	240	335	279	756	743	49
	ほぼ誠意をもって答える	4	1307	106	174	172	359	469	27
	どちらとも言えない	3	758	44	97	82	245	277	13
	やや誠意が感じられない	2	36	5	9	4	13	5	0
	誠意が感じられない	1	38	3	13	4	13	5	0
	平均点		4.32	4.44	4.29	4.33	4.32	4.29	4.40

表 7-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <質問への誠意について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 6】質問への誠意 教員は、学生の質問に誠意をもって答えていますか？	誠意をもって答える	5	6306	1109	723	675	1154	2006	639
	ほぼ誠意をもって答える	4	3790	565	333	502	584	1298	508
	どちらとも言えない	3	2373	289	168	258	342	904	412
	やや誠意が感じられない	2	123	26	12	20	22	22	21
	誠意が感じられない	1	120	16	18	23	19	24	20
	平均点		4.26	4.36	4.38	4.21	4.34	4.23	4.08



## ⑦ 難易度の適切性について

難易度の適切性については、設問項目の中では低い評価であり、全学の評価平均は 3.99 であった（表 8-1、8-2、8-3）。理系、文系学部間の差はほとんど見られず、全学的傾向と判断される。この結果から、難易度設定の再検討を必要とする科目があると評価される。

表8-1 学生による授業評価アンケート(前期) <難易度の適切性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 7】難易の適切性 この科目の難易度はやりがいや手応えを感じるものですか？	大いに感じる	5	2526	577	208	242	229	904	366
	やや感じる	4	3575	668	301	412	319	1214	661
	どちらとも言えない	3	1535	253	89	198	138	491	366
	あまり感じない	2	362	70	24	52	39	110	67
	全く感じない	1	191	43	5	32	12	47	52
	平均点		3.96	4.03	4.09	3.83	3.97	4.02	3.81

表8-2 学生による授業評価アンケート(後期) <難易度の適切性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 7】難易の適切性 この科目の難易度はやりがいや手応えを感じるものですか？	大いに感じる		1553	150	218	173	449	535	28
	やや感じる		1984	179	252	253	586	668	46
	どちらとも言えない		750	53	109	93	246	237	12
	あまり感じない		170	13	32	16	65	42	2
	全く感じない		89	5	17	6	40	20	1
	平均点		4.04	4.14	3.99	4.06	3.97	4.10	4.10

表8-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <難易度の適切性について>

学部			全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 7】難易の適切性 この科目の難易度はやりがいや手応えを感じるものですか？	大いに感じる	5	4079	727	426	415	678	1439	394
	やや感じる	4	5559	847	553	665	905	1882	707
	どちらとも言えない	3	2285	306	198	291	384	728	378
	あまり感じない	2	532	83	56	68	104	152	69
	全く感じない	1	280	48	22	38	52	67	53
	平均点		3.99	4.06	4.04	3.91	3.97	4.05	3.82

## ⑧ 講義の満足度について

講義に対する満足度は、設問項目の中で最も低い評価であり、通年全学の評価平均は 3.90 であった（表 9-1、9-2、9-3）。評価は学部間に大きな差が認められ、通年で 4.0 を超える評価を受けたのは人間文化学部のみであった。満足度の評価が低いのは、講義内容の難易度の適切性と関係がある可能性が指摘される。評価平均ではなく個々の授業科目について詳細に解析することで相関性を見出すことが可能かもしれない。

表9-1 学生による授業評価アンケート(前期) <講義の満足度について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 8】講義の満足度 この科目の授業の内容や実施方法に対する総合的なあなたの満足度を 5段階で示してください。	満足	5	2425	534	249	177	205	896	364
	ほぼ満足	4	2981	544	238	351	266	1032	550
	どちらとも言えない	3	2165	400	107	299	206	689	464
	やや不満である	2	439	92	24	77	47	103	96
	不満である	1	141	36	5	29	10	30	31
	平均点		3.87	3.90	4.13	3.61	3.83	3.97	3.74

表9-2 学生による授業評価アンケート(後期) <講義の満足度について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 8】講義の満足度 この科目の授業の内容や実施方法に対する総合的なあなたの満足度を 5段階で示してください。	満足	5	1488	154	226	153	418	508	29
	ほぼ満足	4	1727	139	224	245	501	578	40
	どちらとも言えない	3	1027	74	126	124	339	350	14
	やや不満である	2	196	23	30	14	82	44	3
	不満である	1	80	6	17	5	36	14	2
	平均点		3.96	4.04	3.98	3.97	3.86	4.02	4.03

表9-3 学生による授業評価アンケート(前期/後期) <講義の満足度について>

学部			全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 8】講義の満足度 この科目の授業の内容や実施方法に対する総合的なあなたの満足度を 5段階で示してください。	満足	5	3913	688	475	330	623	1404	393
	ほぼ満足	4	4708	683	462	596	767	1610	590
	どちらとも言えない	3	3192	474	233	423	545	1039	478
	やや不満である	2	635	115	54	91	129	147	99
	不満である	1	221	42	22	34	46	44	33
	平均点		3.90	3.93	4.05	3.74	3.85	3.99	3.76

### (3) 調査結果の内容（学生の自己点検）

#### ① 授業の準備について

講義に臨むにあたり、授業の予習や復習をする学生の割合は極めて低く、「あまり行わない」と「全く行わない」という回答を併せると、全学通年で51.4%を占める（表10-1、10-2、10-3）。予習と復習の習慣を身につけさせることによって、単位の実質化を図る方策の早急な実施が求められる。

表10-1 学生による自己点検アンケート(前期) <授業の準備について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	784	243	53	67	47	237	137
	ほぼ行う	4	1028	264	75	115	67	347	160
	ときどき行う	3	2187	378	166	282	212	760	389
	あまり行わない	2	2124	326	146	247	240	775	390
	全く行わない	1	2069	403	187	226	170	647	436
	平均点		2.55	2.76	2.46	2.52	2.43	2.55	2.45

表10-2 学生による自己点検アンケート(後期) <授業の準備について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	353	50	57	35	89	111	11
	ほぼ行う	4	586	64	76	45	162	217	22
	ときどき行う	3	1232	102	124	142	334	505	25
	あまり行わない	2	1250	92	160	151	401	428	18
	全く行わない	1	1122	91	211	168	400	239	13
	平均点		2.52	2.72	2.38	2.31	2.38	2.69	3.00

表10-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <授業の準備について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 9】授業の準備 この授業に対して、予習、復習などの自己学習を行っていますか？	必ず行う	5	1137	293	110	102	136	348	148
	ほぼ行う	4	1614	328	151	160	229	564	182
	ときどき行う	3	3419	480	290	424	546	1265	414
	あまり行わない	2	3374	418	306	398	641	1203	408
	全く行わない	1	3191	494	398	394	570	886	449
	平均点		2.54	2.76	2.42	2.44	2.40	2.60	2.48

#### ② 授業中の集中力について

授業への集中力については、いずれの学部においても標準とする3.0を若干ながら上回っている（表11-1、11-2、11-3）。回答の分散を見ると、広がりが大きく、講義への集中度は学生間に大きな差が存在すると推定される。

表11-1 学生による自己点検アンケート(前期) <集中力について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、別のこと考えること等はありませんか？	全くない	5	1559	399	98	146	112	534	270
	ほとんどない	4	2730	521	219	297	237	953	503
	どちらとも言えない	3	1694	301	150	231	176	511	325
	しばしばある	2	1660	291	130	196	181	555	307
	毎回ある	1	545	99	29	67	31	213	106
	平均点		3.38	3.52	3.36	3.28	3.30	3.38	3.35

表11-2 学生による自己点検アンケート(後期) <集中力について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、別のこと考えること等はありませんか？	全くない	5	831	101	93	79	209	327	22
	ほとんどない	4	1509	126	201	151	469	522	40
	どちらとも言えない	3	946	68	128	132	303	300	15
	しばしばある	2	966	83	147	152	306	267	11
	毎回ある	1	295	22	59	27	100	86	1
	平均点		3.36	3.50	3.19	3.19	3.27	3.49	3.80

表11-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <集中力について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 10】集中力 授業中に私語、居眠り、別のこと考えること等はありませんか？	全くない	5	2390	500	191	225	321	861	292
	ほとんどない	4	4239	647	420	448	706	1475	543
	どちらとも言えない	3	2640	369	278	363	479	811	340
	しばしばある	2	2626	374	277	348	487	822	318
	毎回ある	1	840	121	88	94	131	299	107
	平均点		3.37	3.51	3.28	3.24	3.28	3.42	3.37

### ③ 授業への出席状況について

授業への出席状況は、本調査の設問項目の中でもっとも高く、全学通年では「全出席」と「ほぼ」出席を併せると、全体の91%である（表12-1、12-2、12-3）。これは、本学の学生が真面目に授業に出席していることを示している。また、授業の3分の1を超えて欠席した場合には定期試験を受験できないという本学の学則と出席確認を厳密に行っていることが大きい。

表12-1 学生による自己点検アンケート(前期) <出席状況について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除 き、出席していますか？	全出席	5	5379	830	360	497	466	2240	986
	ほぼ出席	4	2155	587	194	322	204	426	422
	ときどき欠席する	3	501	161	54	92	50	68	76
	欠席が多い	2	117	32	13	16	13	26	17
	欠席が大変多い	1	39	2	6	10	4	6	11
	平均点		4.55	4.37	4.42	4.37	4.51	4.76	4.56

表12-2 学生による自己点検アンケート(後期) <出席状況について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除 き、出席していますか？	全出席		2912	182	333	302	807	1231	57
	ほぼ出席		1193	160	203	166	427	215	22
	ときどき欠席する		330	44	59	56	118	46	7
	欠席が多い		84	10	25	12	29	6	2
	欠席が大変多い		26	4	8	5	5	3	1
	平均点		4.51	4.27	4.32	4.38	4.44	4.78	4.48

表12-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <出席状況について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問11】出席状況 授業には特別な事情を除 き、出席していますか？	全出席	5	8291	1012	693	799	1273	3471	1043
	ほぼ出席	4	3348	747	397	488	631	641	444
	ときどき欠席する	3	831	205	113	148	168	114	83
	欠席が多い	2	201	42	38	28	42	32	19
	欠席が大変多い	1	65	6	14	15	9	9	12
	平均点		4.54	4.35	4.37	4.37	4.47	4.77	4.55

### ④ 知識の深まりについて

受講により知識の深まりを感じている学生の割合は比較的高く、全学通年で評価平均は4.05であった（表13-1、13-2、13-3）。平均値3.0に比べ十分に知識の深まりを感じていると評価できる。工学部と大学教育センターの講義でやや低く評価されている点気がかりである。

表13-1 学生による自己点検アンケート(前期) <知識の深まりについて>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問12】知識の深まり この科目を受講して、あなた の知識は深まっていますか？	大いに深まっている	5	2383	535	224	224	193	849	358
	やや深まっている	4	4192	766	332	490	401	1414	789
	どちらとも言えない	3	1152	200	50	150	103	379	270
	あまり深まっていない	2	316	78	17	45	29	90	57
	全く深まっていない	1	142	31	4	28	10	32	37
	平均点		4.02	4.05	4.20	3.89	4.00	4.07	3.91

表13-2 学生による自己点検アンケート(後期) <知識の深まりについて>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問12】知識の深まり この科目を受講して、あなた の知識は深まっていますか？	大いに深まっている	5	1465	145	209	154	426	500	31
	やや深まっている	4	2357	196	307	311	720	781	42
	どちらとも言えない	3	522	42	70	59	168	170	13
	あまり深まっていない	2	143	15	25	13	52	37	1
	全く深まっていない	1	58	2	16	4	20	14	2
	平均点		4.11	4.17	4.07	4.11	4.07	4.14	4.11

表13-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <知識の深まりについて>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問12】知識の深まり この科目を受講して、あなた の知識は深まっていますか？	大いに深まっている	5	3848	680	433	378	619	1349	389
	やや深まっている	4	6549	962	639	801	1121	2195	831
	どちらとも言えない	3	1674	242	120	209	271	549	283
	あまり深まっていない	2	459	93	42	58	81	127	58
	全く深まっていない	1	200	33	20	32	30	46	39
	平均点		4.05	4.08	4.13	3.97	4.05	4.10	3.92

## ⑤ 受講時の工夫について

受講するにあたり、個々の学生が自分に適した工夫をしている割合は低く、全学通年の評価平均は 3.46 であった（表 14-1、14-2、14-3）。「行おうとしている」という回答が最も多い。これは、意欲を持ちながらも、どのようにすればよいのか困惑している状態と判断される。この状態の学生に学修方法を適切にアドバイスすることによって改善する可能性が高い。今後の教育改革における検討課題である。

表 14-1 学生による自己点検アンケート(前期) <受講の工夫について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 13】受講の工夫 あなたは、ノートの取り方、 講話の聴き方など、講義内 容を理解しやすくする工夫や 配慮を自発的に行っていま	積極的にやっている	5	1788	403	139	134	144	696	272
	かなり行っている	4	1903	415	136	265	160	598	329
	行おうとしている	3	2946	507	224	338	307	981	589
	あまり意識していない	2	1169	222	102	153	103	351	238
	全く意識していない	1	377	64	25	47	23	139	79
	平均点		3.43	3.54	3.42	3.31	3.41	3.49	3.32

表 14-2 学生による自己点検アンケート(後期) <受講の工夫について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 13】受講の工夫 あなたは、ノートの取り方、 講話の聴き方など、講義内 容を理解しやすくする工夫や 配慮を自発的に行っていま	積極的にやっている	5	1082	103	142	92	312	411	22
	かなり行っている	4	1092	95	137	117	333	393	17
	行おうとしている	3	1551	123	204	205	479	510	30
	あまり意識していない	2	629	57	100	106	201	150	15
	全く意識していない	1	192	22	45	21	61	38	5
	平均点		3.49	3.50	3.37	3.28	3.46	3.66	3.40

表 14-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <受講の工夫について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 13】受講の工夫 あなたは、ノートの取り方、 講話の聴き方など、講義内 容を理解しやすくする工夫や 配慮を自発的に行っていま	積極的にやっている	5	2870	506	281	226	456	1107	294
	かなり行っている	4	2995	510	273	382	493	991	346
	行おうとしている	3	4497	630	428	543	786	1491	619
	あまり意識していない	2	1798	279	202	259	304	501	253
	全く意識していない	1	569	86	70	68	84	177	84
	平均点		3.46	3.53	3.39	3.30	3.44	3.55	3.32

## ⑥ 質問への積極性について

通年全学で質問を積極的に行っている学生は 26.7%である。また、「質問したいことがあまりない」と「質問すべきことがみつからない」と回答する学生が 51.8%であった（表 14-1、14-2、14-3）。これは、授業内容の理解度が十分でないことが原因と推定され、難易度の適切性との関連がある可能性がある。

表 15-1 学生による自己点検アンケート(前期) <質問への積極性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問した いと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	しばしば質問する	5	836	247	60	103	46	258	122
	ときどき質問する	4	1406	352	144	241	88	358	223
	質問はあるが、ほとんど質問していない	3	1782	310	118	179	187	725	263
	質問したいことがあまりない	2	3025	474	237	298	332	1037	647
	質問すべきことがみつからない	1	1134	226	66	116	84	387	255
	平均点		2.73	2.95	2.83	2.91	2.57	2.66	2.54

表 15-2 学生による自己点検アンケート(後期) <質問への積極性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問した いと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	しばしば質問する	5	421	67	57	40	111	131	15
	ときどき質問する	4	740	102	153	92	154	219	20
	質問はあるが、ほとんど質問していない	3	937	71	94	107	284	366	15
	質問したいことがあまりない	2	1753	116	225	217	593	573	29
	質問すべきことがみつからない	1	691	43	98	85	243	212	10
	平均点		2.66	3.09	2.75	2.60	2.49	2.66	3.01

表 15-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <質問への積極性について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 14】質問への積極性 授業内容について、質問した いと思うことはありますか？ また、実際に質問しますか？	しばしば質問する	5	1257	314	117	143	157	389	137
	ときどき質問する	4	2146	454	297	333	242	577	243
	質問はあるが、ほとんど質問していない	3	2719	381	212	286	471	1091	278
	質問したいことがあまりない	2	4778	590	462	515	925	1610	676
	質問すべきことがみつからない	1	1825	269	164	201	327	599	265
	平均点		2.70	2.98	2.79	2.80	2.52	2.66	2.57

## ⑦ 学修への意欲の高まりについて

受講による学修意欲の高まりについては平均値 3.0 を上回り、評価平均値は全学通年で 3.74 であった。学部間での差はほとんど認められなかった。本学の授業が知的好奇心を喚起していることが示唆されるが、さらに改善の余地が大きいことが指摘される。

表16-1 学生による自己点検アンケート(前期) <意欲の高まりについて>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	1822	450	162	176	134	633	267
	やや思う	4	3400	653	278	396	342	1205	526
	どちらとも言えない	3	2060	330	130	260	183	679	478
	あまり思わない	2	594	113	44	55	56	179	147
	全く思わない	1	309	65	13	49	20	70	92
	平均点		3.71	3.81	3.85	3.64	3.70	3.78	3.48

表16-2 学生による自己点検アンケート(後期) <意欲の高まりについて>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	1084	118	150	104	309	380	23
	やや思う	4	1998	166	246	265	572	709	40
	どちらとも言えない	3	1045	84	155	133	338	316	19
	あまり思わない	2	278	17	41	31	112	74	3
	全く思わない	1	139	14	36	8	54	23	4
	平均点		3.79	3.89	3.69	3.79	3.70	3.90	3.84

表16-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <意欲の高まりについて>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 15】意欲の高まり この科目を受講して、講義内容を更に詳しく学びたいと思いますか？	大いに思う	5	2906	568	312	280	443	1013	290
	やや思う	4	5398	819	524	661	914	1914	566
	どちらとも言えない	3	3105	414	285	393	521	995	497
	あまり思わない	2	872	130	85	86	168	253	150
	全く思わない	1	448	79	49	57	74	93	96
	平均点		3.74	3.83	3.77	3.69	3.70	3.82	3.50

## ⑧ 学習の成果について

学習の成果を問うこの設問は、本アンケート調査の究極の設問である。この設問に対して、全学通年で評価平均値が 3.87 であることは、高く評価できる。しかしながら、「少し成果は上がっている」という回答が最も多く、もう一歩の努力が学生および教員に求められるところである。

表17-1 学生による自己点検アンケート(前期) <学習の成果について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	1790	401	166	154	119	689	261
	少し成果はあがっている	4	4044	772	325	475	380	1395	697
	どちらとも言えない	3	1777	297	108	220	178	544	430
	あまり成果はあがっていない	2	393	91	22	60	42	102	76
	全く成果はあがっていない	1	177	48	5	28	17	34	45
	平均点		3.84	3.86	4.00	3.71	3.74	3.94	3.70

表17-2 学生による自己点検アンケート(後期) <学習の成果について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	1107	113	158	111	312	388	25
	少し成果はあがっている	4	2337	212	301	294	696	788	46
	どちらとも言えない	3	837	56	120	119	271	258	13
	あまり成果はあがっていない	2	174	11	25	12	75	49	2
	全く成果はあがっていない	1	89	8	24	5	30	19	3
	平均点		3.92	4.03	3.87	3.91	3.86	3.98	3.99

表17-3 学生による自己点検アンケート(前期/後期) <学習の成果について>

学 部	回 答	係数	全学	経済	人間文化	工	生命工	薬	大教センター
【質問 16】学習の成果 この科目であなたが得た成果を5段階で自己評価してください。	十分に成果はあがっている	5	2897	514	324	265	431	1077	286
	少し成果はあがっている	4	6381	984	626	769	1076	2183	743
	どちらとも言えない	3	2614	353	228	339	449	802	443
	あまり成果はあがっていない	2	567	102	47	72	117	151	78
	全く成果はあがっていない	1	266	56	29	33	47	53	48
	平均点		3.87	3.89	3.93	3.79	3.81	3.96	3.71

## 5. アンケート結果に対する学科の報告書

本学では、学科単位でカリキュラムを編成しており、授業の点検・評価を学科単位で行うことが適切である。平成 24 年度にアンケート調査を実施した各学科の科目について、学科長に報告書の作成を依頼した。以下に各学科より提出された報告書を転載する。

### <経済学部 経済学科>

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、経済学科では前期 13 科目、後期 11 科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7 項目の平均は 4.28 であり、平均値を 6 項目で上回っている。本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。また、総合的満足度を問う設問 8 でも 3.93 と、平均値を上回っている。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を続けなければならない。学科における全体評価は高いが、教員間で大きな格差がありまた自由記述については一部教員について板書文字が不明瞭などの指摘がされており、学科長から該当教員に改善努力を口頭で促した。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：学生に関して授業の準備ほか 7 項目については 5 項目で上回っており平均で 3.50 である。特に出席状況では殆んどの科目で平均を下回り、全体として 0.26 下回る結果となったことは今後の課題と認識している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、PBL や SGD 等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。経済学部では数学基礎力の向上や今後においてはミクロ経済学・マクロ経済学の授業方法の新たな取り組みなどを組み合わせながら効果を上げていくことにしている。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め殆んどの教員から提出（非常勤講師については把握していない）があったと思われる。学生に対するフィードバックは前期・後期終了までに学科ごとに行った。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回までに当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

学科の各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- ① 教員側が回答する部分がない。
- ② 理解度を向上させるには能力別クラスを検討してはどうか

③ レポートなどを丁寧に見たく、TA 制度を検討願いたい。

④ 実施時期が例年前・後期の終りとなっている。担当教員が学生へフィードバックしたり報告書を提出することから止むを得ないところもあるがもう少しゆとりが欲しいと感じた。

#### 【総 括】

今回のアンケート調査では、本学における授業の実施と学生成果に実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点解決に向けた改善を求めたい。アンケート結果では本学科教員の評価は平均以上であったが教員間では大きな格差があった。レーダーチャートは自らの位置が把握しやすく、長所・短所を分析しつつ今後は各教員が取り組みの成果が表れるよう教育向上に役立てて参りたい。

以上

### <経済学部 国際経済学科報告書>

#### 【対象科目の選定】

教員（非常勤講師を含む）1人当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、国際経済学科では前期10科目、後期1科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員評価項目①～⑧について、全体的にはいずれの項目に関しても4以上の高い評価である。特に“計画性”については4.48と高得点である。“講義の工夫”については、全学3.99、経済学科3.93、税務会計4.17に対し国際経済は4.16と税務会計と同じく相対的に高い評価となっている。資料配付、パワーポイント上での工夫などの取り組みが高評価につながったのであろうか。次に、“難易の適切性”に関しては、全学3.88、経済学科3.92、税務会計3.99であるが、国際経済では4.04である。難易度から言えば国際経済にも難易度の高い科目は多いと思うが、その内容を平易に解説する工夫が評価されたのであろう解釈している。続いて、“講義の満足度”に関しては、全学で3.83、経済学科で3.79、税務会計で3.9であるが、国際経済では4.06と学生の満足度は高いようである。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力が必要である。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：学生の取り組みに関する項目（設問⑨～設問⑯）に関しては全体的に低い評価点となっており、今後の取り組みが強化されるべきものである。まず、“授業の準備”は2.76であり、全質問項目の点数中で最低となっている。学生が普段如何に授業の勉強に取り組んでいないかを示しており、大きな反省材料である。次に、“出席状況”はこの項目だけが全学を下回っているものだが、それでも4.4であり、数値の大きさから判断して出席が各授業で調査されており、問題はない。続いて、“受講の工夫”についても3.69と平均的であり、もっと改善の余地があるということである。“質問への積極性”に関しては3.14とその他と比較すると高い評価であるが、もっと質問を受け付けるような工夫の導入が個々の授業において求められる。“意欲の高まり”と“学習の成果”はある意味で最重要の項目であるが、それぞれ3.8と3.95であり、満足すべき水準ではない。“講義の満足度”と同じくらの高い評価を目指したいところである。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、少人数の授業では対話形式をもっと導入するこ

とが有効策の一つと考えられる。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%である。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは前期・後期終了までに各教員が当該講義の中で実施した。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

PDCA サイクルを自分の講義を対象に回すことが要求されているが、それには各教員が主体的に、データ分析、工夫、仮説検定等試行錯誤に取り組まなくてはならないはずである。PDCA サイクルを回すため、この授業評価アンケートが有効活用されなくてはならない。各教員が容易にサイクルを回せるように、次年度の接続を明記し、シリーズでどのように回したかが一目了然となるような形式が考えられないか。現在は、単年度の扱いであるため、毎年同じ欠点を指摘されても次年度でそれがどのように改善されたのか不明である。

例えば、平成23年度の授業評価で板書得点が低かったならば、次年度の取り組みでは、プランとして板書を見やすく丁寧に書く⇒次年度の授業評価アンケートの結果をチェックすることが考えられる。これを学科全体のデータとして学科が管理するとすればどうだろうか。

#### 【総括】

明確な結論が出ていると思われる。第一に、教員の授業への取り組みにおいては高い評価を得ている。個別の教員において評価が低い項目には改善に取り組んでもらわなくてはならないのはもちろんであり、評価の高い教員もさらに努力を傾注すべきである。第二に、こちらのほうが重要なのだが、全体的に、学生が学習をしていない実体が明らかとなっていることである。集中力、受講の工夫、質問への積極性など相互に関連性の高い質問項目が並んでいるが、これらの項目で高い評価点を得ることができるように授業の細部について自己点検が求められていると思う。学科の教員にはこの全体の総括を示して次年度の改善を求めている。以上

以上

### <人間文化学部 人間文化学科>

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、人間文化学科では前期（8）科目、後期（9）科目について調査を行った。

なお、前期は、8科目が専任教員担当、後期は、9科目中専任教員担当の科目は2科目、それ以外の7科目は非常勤講師担当の科目である。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：回答率、前期81.2%、後期78.1%で、後期が低い。前期の結果を踏まえて言えば、教員の授業についての工夫に係る質問事項1～7は、いずれも4点以上であり、教員の取り組みの姿勢は評価されていると言える。「講義の満足度」は、「4.30」と全学平均「3.87」を大きく上回っている。「集中力」も、「3.56」で、全学平均「3.38」を上回っている。「学習の意欲」および「学習の成果」は、それぞれ「4.05」および「4.21」で、全学平均「3.71」及び「3.84」を大きく上回る。



全体として、学生の授業への取り組みが若干消極的であることが伺える。これは全学平均と全く同じであり、全学的な傾向と言える。それは、「授業の準備」が「2.40」で、全学平均「2.55」を下回っており、決定的に欠けているところに問題があると言える。これらを総合すれば、学生より教員が努力をして授業を引っ張っているという現状が透かし見られる。

分析結果を踏まえた改善方策：講義科目の授業方法について改善が必要である。学生の主体的な授業への参加を促すため、課題を出したり、発表させたり、一方的な講義ではなく参加型の授業へと切り替えるなどの方法が提案されている。今年度は、ゼミでの合同授業や、オープンキャンパスでの高校生に向けての発表など、学生の主体的な取り組みを促す授業を工夫してきた。ただ、学生が授業で出した課題を次の時間までにこなせないことが増えており、自宅での学習時間の不足が問題である。これはアルバイトの時間についての指導など、学外の学生の生活についての指導が必須である。これは社会的な問題であり、対社会に向けての大学の態度表明が必要とされるのではなかろうか。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：全学的にも「授業の準備」は低いようだが、前述の通り本学科でも低い。しかし、今年度は全体的に各項目で4点を上回り、昨年度と比較して評価は大変高くなっている。「講義の満足度」は、昨年度「3.97」、今年度「4.30」。「集中力」も、昨年度「3.44」で、今年度「3.56」を上回っている。ただ、「質問への積極性」は、昨年度「2.63」で、今年度「2.78」。「学習の意欲」「学習の成果」は、昨年度「3.56」「3.75」、今年度「4.05」「4.21」。全体として、学生の授業への取り組みが若干消極的であることが伺えるものの、昨年度よりは改善されていると言ってよい。

分析結果を踏まえた改善方策：内向的な学生気質が伺え、SGD等の新しい授業方法を取り入れ、意見交換しながら学習の意欲を全体的に高めるとともに、授業におけるプレゼンテーションの場を多数経験させるなどの工夫を必要とする。今年度は、授業でのグループワークなどを取り入れ、学生の参加型授業に積極的に取り組んだ。これを来年度にも活かしたい。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は71%であった(非常勤講師は6名中2名のみ提出)。学生に対するフィードバックは各授業期間終了までに科目ごとに行った。ただし、非常勤講師担当の授業科目で、最終日に間に合わなかったものもあった。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書(添付)より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

①個別の方法を越えて、学生たちの4年間をトータルに支えることのできるカリキュラム作り、その中における個々の授業の位置づけを考えることによって、学生たちが自身の「学び」に自覚的になることを可能にする指導計画を立案中である。特に人間文化学科は諸学問領域を総合的に学ぶ学科であり、ともすれば学習者は「知識の寄せ集め」によって自身の学習成果を描いてしまう危うさがある。人間文化学科は、専門教育の目標を定めて新たな教育システムによって指導体制を強める

ように計画をたてている。その際、教員側が指導計画を作成する前に、(例えば「学習者中心主義」の考え方に立った)学習者の現状を徹底的に把握・共有する場を持つことは必須である。

②的確な課題を与え、質問ペーパー等の配布・回収を義務付けることで、学生自身の学習意欲を引き出していく必要がある。授業に取り組む姿勢について(主として予習復習といった授業外の学習について)、学生自身が考える「必要性」を授業で発見する過程を置くことが望ましい。テストや授業中の確認といった知識獲得レベルの必要性だけではなく、その学問が自らの生きることと如何に結びついているのか、学ぶことの意味そのものを授業において考えていく必要がある。このことは授業の内容・方法そのものを変革していくこととも深く関わる。

③教室の機材の不備について指摘があった。プレゼンテーションなどの参加型授業を全学的に奨励しているが、教室のプロジェクターに不具合があったり、ノートパソコンの数が不足して使用できないことがあり、教育機器の整備を要望したい。

④非常勤講師の一人から、学生の自由記述について疑義が寄せられていた。抽象性の高い科目については、学生の取り組みをどのように促すか、専任の教員でない場合には困難が伴う。今後の指導体制上の課題である。

### 【総括】

今回の授業アンケートにおいては、教員の授業への取り組みは高く評価されていると言える。ただ、学際的な学科の特性として、知識の寄せ集めではなく、総合的な学習指導の方法や、4年間の学びの目標や計画的な指導方法の確立が最も大きな課題と考えられる。これは、学生自身には自覚できないものであり、教員に課された最重要な課題である。また、学生の授業への消極性が問題として上がってきたが、課外での学習時間の確保について、大学全体として考える必要がある。現代の学生には、自宅での学習習慣がついていないことが問題である。これは、全学的な問題でもあるが、特にアルバイトなど社会的な問題も含むので、全学的な対応が必要である。

以上

## <人間文化学部 心理学科>

### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員(非常勤講師を含む)当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、心理学科では前期5科目、後期5科目について調査を行った。

### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析:教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.55であり、全学の平均4.19を上回っており、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術は標準以上をキープしていると判断できる。総合的満足度を問う設問8では4.31であり、7項目の平均値をやや下回るものの、全学平均の3.92を上回る値であり、これも標準以上の評価と言える。

分析結果を踏まえた改善方策:本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしており、教員の講義技術は、評価できる結果と考えることができる。あえて改善点をあげるなら、「難易度の適切性」だろうか。質問1～6までの平均値が4.59なのに対し、質問7は4.21に留まっている。全学平均が3.87であることを考えると、学科自体の難易度を問題視するレベルではないかもしれないが、この点が改善されると講義より良く学生のニーズにフィットした講義となることは間違いのない。一方で、心理学とはどちらかといえば難解な学問なため、難易度を下げると確かに理解はしや

すくなるだろうが、全国標準的に妥当であるレベルを保てなくなる可能性もある。現在の学生の能力や理解度を考えた難易度の調整に関しては、すでに各教員は工夫を重ねて対応していると思われるが、さらなる難易度の再調整も可能であろう。また、科目ナンバー制が導入されれば、難易度をあらかじめ明確化され、難易度の高い科目にはそれなりに心構えをもって受講する態度を養成していくことも可能となるかもしれない。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、学生の自己点検の平均は 3.62 であり、全学平均 3.53 をわずかに上回る結果であった。これは、学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、昨年度も同じ傾向にあった。これは、教員への授業評価の高得点を考えると、その差は大きい（ちなみに昨年度は 3.44 で、今年度は多少改善されているが…）。心理学科の学生は、教員の授業手法には一定の評価を与えているが、その期待に応えることができていないと考えているとも思われるが、他の理由も考えられる。この点については、単に学生の自発性の問題だけではないかもしれないので、総括の部分であらためて考察する。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。昨年度は、「授業の準備」、「集中力」、「出席状況」が全学平均を下回っていたが、今年度は、「集中力（心理 3.26, 全学 3.37）」、「出席状況（心理 4.39, 全学 4.53）」、「受講の工夫（心理 3.35, 全学 3.46）」でそれぞれわずかであるが全学平均を下回っており、何らかの修正を必要とする項目といる。一方で、「知識の深まり（心理 4.30, 全学 4.06）」、「学習の成果（心理 4.06, 全学 3.88）」では、まずまずの得点であることから、学習や知識の獲得という点に関しては、自らに低い評価を与えていない点であることを考えると、学生自身は講義に対する集中力の維持には苦勞しながらも、力をつけつつある側面も伺える。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100% であった。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回において、当該授業科目担当教員が行った。尚、学生へのフィードバックの方法は、心理学科では各教員にまかせている。多くの教員が各項目の平均評点を、大学全体、学部、学科、この授業と並べて説明、授業もしくは試験の際に、PPT などを用いたり、口頭で報告と解説を行っていた。その詳細を提出された報告書に記載しているが、いかに箇条書きに示す。

- ・授業前、授業時に口頭で説明をした教員 4 名
- ・結果をどう考えるかを説明し学生からも意見を聴取した 1 名
- ・PPT を用いて全学との比較を説明した 2 名
- ・独自に行なった学生の自由記述の結果と合わせてフィードバックした 1 名
- ・図を提示し、説明と今後の改善点について話をした。1 名
- ・全学と比較したレーダーチャートを配付して説明した。1 名

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された中で重要だと思われる意見や提案を以下にまとめる。

- ① 「質問を生み出すこと」を学生，教員ともに目標にすることが有効と考える。不明点が解消，理解度を確認し集中力，受講の工夫も高まる。
- ② 自分の学習で何がわからない点，出来なかったことがどうできるようになったのかのモニタリングが出来るような内容を検討する必要がある。
- ③ 難易度の調整は，簡単なものでそろえるのではなく，段階を追って難しい内容も理解できるようになるようステップアップ式の内容を検討する必要がある。
- ④ 学習意欲や理解力の高い学生だけでなく，低い学生については，予習・復習や授業関与度を上げることで，学習成果を高められると考えられる。
- ⑤ 事前に次の授業内容に関連した課題を出し，調べてくるといった事前課題を出すことで，自主学习による「授業の準備」を促進する。
- ⑥ 最後に学生が記入をする時間を多く取ることで「質問への積極性」を促す。
- ⑦ 授業の準備をしていない学生が多いのは問題への対応として予習や復習をさせるために課題を出す必要がある。また，主体性を引き出すよう授業の方法を改善する。
- ⑧ 実際のフィールド活動への参加により，社会貢献や専門性獲得への動機づけを高め，知識を日常生活や社会に活かす技術・態度の形成へ結びつけるとよい。
- ⑨ すでに専門領域で働く先輩の在学時代の状況や勤務状況を伝え，専門職をより身近な目標として設定させる。
- ⑩ 理解している学生のペースにあわせず，個々の状態を把握しながら講義を進める必要がある。適宜確認のための問題の実施やその場で質問を検討し話し合いをするなどといった時間を設けることも必要。
- ⑪ 授業の予習，復習をするようになるため，課題あるいは小テストを実施していく。
- ⑫ 授業中に集中力が途切れないように，一方的な講義だけではない授業形態を考えていく。
- ⑬ 感想用紙を通して学生が学びたいこと，困難と感じていることを丁寧に取り上げ，毎回の講義の修正することで，理解度と講義の内容をマッチさせる必要がある。

## 【総括】

今回のアンケート調査では，本学における授業の実施と学生成果に実態を表す結果が得られたと考えている。今後は示唆される問題点解決に向けた改善を求める必要があるが，心理学科の課題は，昨年に引き続き「授業の準備」，「集中力」，「出席状況」をより良いものへと改善していく必要がある。こうした課題を克服策として，全学的にPBLやSGD等の新たな教育方法の導入などもすすめられている。こうした新たな取り組みを推進する一方で，講義についていくのが極めて難しい，と思われる学生の割合がじわじわと増えている可能性は，年々その深刻度が増しているような気がする。全体的に学生のレベルが低下していると考ええるよりも，きわめて学力が低下している学生が目立っているのではないだろうか。これまでもこれらの学生はいたが，ごく一部であった可能性がある。今では，一定の集団レベルで，こうした学生が存在し，学生自身の自己評価の得点を下げている要因となっている可能性があげられる。

たとえば，心理学科を見るかぎりでは，熱心に予習や復習もこなす学生は少なくない。また，空き時間に学習グループで自主学习をしている学生を見かけることも多い。振り返りシートにも，意欲を感じる内容の学生も少なくない。にもかかわらず，なぜ，自主学习を行なわない，という結果が数値としてでてくるのか。むしろ，モチベーションの高い学生は以前より増えていると感じるこ

ともあるくらいである。とすれば、もしかしたら、全体的に学力が落ちていると考えるよりも、授業についていくのには困難すぎる集団が存在し、それらの学生が自主学習などの得点にも、影響を及ぼしている可能性はないだろうか。問題となるのは、これらの学生は、必ずしも意欲が低いわけではなく、何らかの理由で、平均的な講義そのものがすでに難解すぎるため、どのように自主学習をしたらいかがが分からない学生ではないだろうか。こうした学生には、PBL や SGD,あるいは従来の学習支援とは異なった方法の教授法を考える必要があるかもしれない。単に学生の主体性を引き出すだけでは、解決できない問題が立ちはだかっている可能性があるかもしれない。いまのところ、こうした学生への対応は簡単ではない。いずれにせよ、教員には、これまでに引き続き、さらによりクリエイティブな取り組みを行なっていくことが求められる。

以上

## ＜人間文化学部 メディア情報文化学科＞

### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、メディア情報文化学科では前期 9 科目、後期 4 科目について調査を行った。

### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。各項目の学科平均値は 4.0 以上で、それぞれ、全学の平均値程度であり、標準値を超える程度の授業技術を有していると判断できる。総合的満足度を問う設問 8 では 3.95 であり、授業技術等に較べてやや低い値であった。この原因は「学生の自己点検」の結果に表れているように考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：学科全体の平均値は概ね良好といえるが、科目毎にみると例えば、講義の満足度では 3.0 に満たない値から 4.55 まで幅広い。低めの評価（3.5 以下）の科目担当者から、来年度も継続して担当する科目については改善策等が提案されている。これらが実施されるよう、環境を整える必要がある。

### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：ほぼ全項目が全学平均程度であるが、概ね低調な結果となっている。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断できる。特に受講の工夫については低めの評価となっている。

分析結果を踏まえた改善方策：受講の工夫が低めとなっていることについては、板書よりもパワーポイント資料を利用する授業の多いことへの対応が不十分であるとも考えられる。このような講義では要点やキーワードのみをスクリーンへ表示することも多く、傾聴法やノートの取り方などが板書授業より高い技術が必要な場面も多く、この点を学生自身に理解させるなどの対処が必要である。

### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全学及び学部の平均値と比較値をフィードバックしている。要求や必要性に応じて、全データのフィードバックした科目もある。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、アンケート集計値のある科目については全科目提出された。

### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは授業最終回頃、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

グループワーク等を行おうと思った場合、それに適した場所が学内にあまりに少なく、複数で能動的に学習を行わせるには現状では難しい。学習者にとって身近な場所にそうした学習ができる場所の確保が必要である。

#### 【総括】

今回のアンケート調査では、授業の実態を表す結果が得られたと考えている。

①学生による授業評価により、授業満足度等について科目毎の値の差異は大きい概ね良好であることがわかった。

②学生の自己点検では、低調な評価が多く、学習するための技術や意識が改善されるよう、教員側の努力が必要であることがわかった。

以上

### ＜工学部 電子・ロボット工学科＞

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、電子・ロボット工学科では前期6科目、後期5科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は4.45であった。これは、全学平均（4.23）を上回っている。昨年度の全学平均は4.21とあまり変わっていないことから、本学教員の板書、話法、計画性等の平均的な授業技術は向上したと判断できる。また、総合的満足度を問う設問8においても昨年度の3.86から4.14に向上している。一方で、個々の教員を見た場合、昨年度のスコアを下回る傾向がみられる。この原因は、「学生の自己点検」の結果に現れているように、学生の学習姿勢に変化が現れているのが一因ではないかと考えている。即ち、教員と学生との相互の信頼関係が確立する更なる努力が必要と考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。前段でも触れたように、学生と教員の相互の信頼関係を継続的に築くことが不可欠であろう。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、平均値は3.5であった。このスコアは、昨年度より0.05ポイント下回り、結果として全学平均（3.53）を僅かであるが下回る結果となった。これまで、全学平均を下回ったことが無く、相対的に評価すれば、今年度は学生の意欲がやや低下していたのではないと思われる。

分析結果を踏まえた改善方策：「知識の深まり」、「学習の工夫」、「学習の成果」、に関しては全学平均を上回っているが、「授業の準備」、「集中力」、さらには、「出席状況」に関しても絶対値は高いながらも全学平均を下回る結果となっている。科目によっては、学生が学習の必要性を実感し、自ら

学ぶ態度を身につけようとしている傾向があるが、特に、「集中力」が昨年度より下まわっているのが問題と考えられる。これは、教員の学生に対する態度のバランスが一因となっている可能性がある。恒常的な問題として、どうしても学生には「質問」を渋る傾向がある。これは、日本の社会の中ではいたしかたない一面もあるが、この部分の打破こそが重要であろう。PBLやSGD等の新しい教育方法を取り入れることも有効策の一つと考えられる。故に、補習教育などの充実も重要とは考えられるが、そこにも積極的に質問できる環境ができなければ効果は低いと考えられる。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、前後期すべてのアンケート調査結果が戻った時点で、教室教員全員に対して全ての集計結果を返却すると共に、データの開示を行い各教員の評価の共有を図っている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は91%（11教科中10件）であった。なお、未提出の1件は非常勤講師の集中講義であったため学生へのフィードバックは常勤により実施した。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【総括】

今回のアンケート調査では、電子・ロボット工学科における授業の実施と学生成果に実態の相関性の一端が伺える結果が得られたと考えている。更により授業を行うための改善点としては、種々の要素があると思うが、今回の結果から見出すことができた根幹となる重要な要素は、昨年度から継続して「教員と学生との信頼関係の構築」ではないだろうか。一方で、学生との距離感を再考察する必要が感じられたのも事実である。「真摯に学ぶ」姿勢を伝える努力を教員自身も実践してゆく必要があると考える。

以上

### <工学部 建築・建設学科>

#### 【対象科目の選定】

建築・建設学科では、前期12科目、常勤7名の教員、客員5名の教員、後期8科目、常勤5名、客員1名の教員が授業評価アンケートを実施した。これらのうち、前期、後期に2科目の授業評価を受けた教員は3名である。

#### 【調査結果に対する点検】

学科全体と全学との平均値の比較では、前期の場合、「講義の満足度」と「講義の工夫」がやや全学より下回った。その原因として、平均値を大きく下回る科目が3科目あったことが考えられる。他の項目については全学の平均値とほぼ同程度であった。後期については、学科全体の平均値は各項目ともに全学とほぼ同程度であり、平均値を大きく下回る科目はなかった。自由記述欄の内容として、前期の3科目に対して板書の文字についての指摘があった。具体的には「教員の板書の仕方」の項目に対する内容であり、文字の小ささと流し文字等の見づらさが原因であるが、現在パワーポイントによる授業が多く、質問項目の内容を見直すことによって、より現状を反映した評価結果が得られるものと考えられる。「講義の満足度評価」と「学習の成果」の2項目に対する学科内の全評価対象科目のうち、全学平均値以上の科目がともに8科目、全学平均値を10%以上下回る科目がそれぞれ4科目、2科目、全学平均値より低いとその10%以内の科目がそれぞれ8科目、10科目であ

った。各科目における「講義の満足度評価」と「学習の成果」の評価点はほぼ同程度の評価点であり、大きな差がみられた科目はなかった。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

アンケート項目の「学習の成果」は学生による自己評価であるが、定期試験の結果等による評価結果も考慮して最終成果の判断を検討する必要がある。今年度の授業評価対象科目には数年継続して実施されている科目も多くあり、ある程度の評価点以上の場合には授業改善後の評価点も変動が少なく、また、複数年に渡り低い評価点の科目もあり、授業改善を担当教員だけに任すのではなく、学科全体としての補助的支援が必要である。そのために、学科内の情報共有を行い、授業公開等を積極的に実施することを計画中である。

#### 【教員・学生へのフィードバックについて】

各教員の授業評価アンケート結果については、前期、後期ともに学科内で情報を共有し、各教員が改善策の検討と学生へのフィードバックを行った。

#### 【総括】

授業評価アンケートは単独の各科目を対象とした評価であるが、建築関係の知識と技能の全体系的視点からみると、それぞれの科目が関連性を持ち総合化に向けた教育が求められる。例えば、設計製図演習等の実技科目のように他の科目の履修と理解を前提とした科目もあり、「学習の成果」に対する評価には複合的な分析を要する。したがって、学習成果を高めるための授業改善には、教員個人による対応だけではなく学科全体としての対応が必要であり、そのためには、実効性のある教育システムの見直しと構築、カリキュラムマップの有効活用を行い、授業の関連性を学生に理解させ、学生の学習意欲を引き出すための施策を行いたい。

以上

### <工学部 情報工学科>

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目または2科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、情報工学科では前期9科目（集中1科目）、後期3科目について調査を行った。なお、中嶋非常勤講師に関しては、前期夏期集中講座のため、アンケートの集計は後期に行われ、フィードバックは行われていない。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：アンケートの結果では、「講義に対する満足度」は、工学部の平均点である前期3.61、後期3.97に対し、学科の平均点が前期3.52、後期3.98と前期が特に下回っている。学科の平均点としては、前後期とも学科の最低目標である3.5以上を満足しているが、前期に標準値の3.5未満が4科目ある。しかし、評価が3.0以下となる特に低い科目は存在しなかった。一方、自由記述には厳しい指摘のものもあり、担当者には直接伝えることとする。

分析結果を踏まえた改善方策：昨年度との比較に関しては、昨年度と同様に目標の3.5未満の科目が残った。来年度も同じ科目で調査を行い、この傾向が来年も続くようであれば、授業内容の見直しや担当者の交代を考えたい。標準値である3.5以上を目指すことを再確認した。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：「学習の成果」では、工学部の平均点である前期3.71、後期3.91に対し学科の



平均点が前期 3.61、後期 3.89 とやはり前期が下回っている。しかし、評価が 3.0 以下となる特に低い科目は存在しなかった。相対的に、入門科目が良い評価となっており、配当年度が高い科目ほど低い評価となっている。学生が授業内容の理解が十分でない状態で、進級しており、授業の難易度とのギャップが学年とともに大きくなっていると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策： 定期試験のみで学習の効果を判断するのではなく、授業中に小テストを行うなどして、学生が授業をどの程度理解できているかを常時チェックし、毎回の授業に臨機応変に反映していく。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果を開示し、フィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、夏期集中科目 1 科目を除き、提出率は 100%であった。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- ① 学生が力をつけるような参加型の授業を目指す。
- ② 図を用い視覚に訴えて理解しやすい工夫を行う。
- ③ 学生の習熟度に差があり、授業の難易度や進行速度を設定しにくい。

#### 【総 括】

今回の授業アンケートでも、昨年度と同様に授業評価と自己点検の結果が一致しない科目が見られる。特に、授業評価が高くて、自己点検の結果が低い場合が問題である。このような科目は、講義の改善が行われても、学習の成果が上がっていない可能性がある。今後は、その原因を調査し、学習の成果がより高くなるように、授業内容や授業方法の見直しを行う。また、入学時から学生間に大きな習熟度の差が生まれている。習熟度の異なる学生にどのように対応するかを今後議論していく。

以上

### <工学部 機械システム工学科>

#### 【対象科目の選定】

本学科に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、機械システム工学科では前期 8 科目、後期 4 科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析： 授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。この 7 項目について全学と比較して本学科が上回っているものは、後期授業評価では、板書法、話し方、時間、講義の工夫、質問への誠意の 5 項目であり、下回ったのは計画性と難易の適切性の 2 項目であった。これから本学科の授業は比較的學生から評価されていると考えられる。しかし、総合的満足度を問う設問 8 では、全学よりも低くなっており、専門科目では数学などを用いることが多いので、どうしても理解しにくい点があるものと推測される。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。特に、難易度については改善の必要を感じている。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：後期授業評価で、本学科と全学と比較すると、設問 10 から設問 16 までにおいて全て全学よりも低くなっている。本学科学生の勉学に対する意欲が低いことが示されている。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業であるが、授業の難易度の改善を図り、基礎的な内容から始めて、少しでも学生が興味を持つようにしていくことが大事と思われる。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100%であった。学生に対するフィードバックは、全教員が行っている。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- ① 各学生の習熟度にあわせた演習問題や課題などを実施。
- ② アクティブラーニングの導入率を増やして行く。
- ③ 授業の最後に次の予告を行い、学生の予習を促したい。

#### 【総 括】

今回のアンケート調査では、本学科学生の勉学に対する意識が低いことが明確になっており、これを改善することが重要である。今後、様々な試みを導入して、改善していきたい。

以上

### <生命工学部 生物工学科>

#### 【対象科目の選定】

本学科に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、生物工学科では前期 5 科目、後期 9 科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：前期・後期を通算した評価結果について分析した。全科目の回答率は 83.4%であり、全学の回答率と比べると 6%高く、本学科学生の授業出席率が高いことが判明した。教員の授業技術（板書法、話し方、計画性、時間、講義への工夫、質問への誠意）を問う設問（質問 1）～（質問 6）では、いずれも 4.0 以上であり、教員は真摯な態度で授業に取り組んでいることが示された。しかしながら、一部については学科平均を大きく下回る教員が存在していた。授業内容の難易度および満足度はそれぞれ 3.94 および 3.92 と全学平均とほぼ同様の評価であった。これは授業内容の難易度設定が不適切であることを示唆しており、満足度がそれに連鎖して低くなったと推定される。分析結果を踏まえた改善方策：教員の授業方法についてはそれぞれの教員が授業に対して熱意をも

って臨んでおり、これを継続維持する必要がある。しかし、授業内容の難易度については点検する  
必要があり、次年度シラバス作成において十分に検討する必要がある。また、評価の低い一部の教  
員については授業改善に向けた一層の努力を促す必要がある。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：学生の授業への出席状況は 4.0 を超えていた。しかし、その内容は 1 時限目の科  
目の回答率が 81.2% に対して 2 時限以降の科目では 87.1% となり、1 限目では 2 時限以降の授業よ  
り 5.9% 低く、朝の起床時間を守れない学生が一定の割合でいることが推定された。授業の準備、  
質問への積極性ではそれぞれ 2.05 および 2.46 と低い結果であった。これらは全学と同じ傾向にあ  
るが、今後の改善の重要課題である。

分析結果を踏まえた改善方策：1 時限目の授業への出席率をさらに高めるため、規則正しい生活を送  
ることを指導する必要がある。また、授業に臨むにあたり、予習と復習を行う習慣が無い学生が多  
いため、授業時間毎に課題を与えることで学修準備の習慣をつけさせる必要がある。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果を文書にてフィードバックしてい  
る。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求めている。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員がそ  
れぞれ行った。各教員のフィードバックを報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員の報告書に記載の通りであるが、これに加えて、上記点検結果から示されたように授業内  
容の難易度設定に不適切なものがあることを認識し、より平易な解説を心がけるとともに、小テス  
トなどを活用して学生の理解状況を確認しながら授業を行う必要がある。

#### 【総 括】

今回の授業評価アンケートにおいて、本学科教員の授業への取り組みは高く評価されていると言  
える。また、学生の多くは真面目に授業に取り組んでいるものの、積極性が高いとは言えない。そ  
のため、今後はアクティブ・ラーニングを積極的に授業に取り入れ、学生に学修習慣を身につけさ  
せることが重要である。

以上

### <生命工学部生命栄養科学科>

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり 1 科目について、前期・後期のいずれかで調査  
する方針に従い、生命栄養科学科では前期 8 科目、後期 5 科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する 7 項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を  
問う設問で構成されている。7 項目の平均は全学で前期 4.19、後期 4.27 であるのに対し、本学科  
は前期 4.23、後期 4.27 であり、平均をやや上回っており、本学教員の板書、話法、計画性等の授  
業技術は十分に高いレベルを有していると判断できる。しかし、総合的満足度を問う設問 8 では全  
学で前期 3.87、後期 3.96 に対し、本学科は前期 3.85、後期 3.88 であり、やや下回っていた。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしている

が、今後も一層の改善努力を試みる予定である。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、いずれも教員評価を下回る結果であった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、本学学生の資質と気質が反映していると推定している。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは至難の業である。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- ①アンケートに質問項目の改善が必要。
- ②講義の最終回にアンケートを実施するべきである。
- ③講義のみでなく実験、実習、演習などすべての科目に対して行うべきである。

#### 【総 括】

各教員が自分の授業方法を見直すという点では意味があると思われるが、学生からの評価の良い科目が学生の理解度が高く、国家試験の模擬テストでよい成績を得るとは限らない。まったく関係ないといえる。興味を持って取り組み、授業内容を理解している学生は1割にも満たない。今まで本気で勉強をしたことがなく、勉強の仕方が分からない学生が少なくとも約3割はいる。この現状から脱却するには、学科内の全教員が協力して取り組む以外に道はない。授業評価を教員の自己評価に取り入れ、教員を比較し給与まで反映するのは疑問である。各教員がそれぞれのやり方で努力しており、個性があるから面白いのであり、画一的な教育法は意味ないものと思います。

以上

### <生命工学部 海洋生物科学科>

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、海洋生物科学科では前期10科目、後期12科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目について、今年度後期の授業評価では当学科教員の平均値は全学のそれをわずかに下回っていた。このことは、一部の教員が全学の平均値と比べてずいぶん低い値となっていることが原因で、当該教員を除けば、本学科教員の板書、話法、計画性等の授業技術には大きな問題はないと判断できる。しかし、常にこれらの授業技術の向上に努めて、総合的満足度を高める必要があると考える。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生はほとんどの教員に対しては標準あるいはそれ以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。また、一部教員については、板書方法や説明内容が不明瞭との指摘があり、学科長が該当教員に改善努力を口頭で促した。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、全学平均値よりもわずかに下回った。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、本学学生の資質が反映されていると考えられる。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学習の必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。改善策の一つとして、学科全体で講義中の問いかけを増やすことで、理解を深めるとともに、講義の予習にも繋げたいと考えている。また、可能な限り、PBLやSGD等の新しい教育方法を取り入れたい。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当の専任教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は100%であった。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その詳細を提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- ①フィールドワークの効果的な導入。
- ②視聴覚機器の積極的かつ効果的な活用。
- ③学生実験の内容と関係させた講義の構築。

#### 【総括】

今回のアンケート調査では、本学科における講義の実施と学生の成果の実態を表す結果が得られたと考えられる。今後、示唆された問題点の解決に向けて、学科全体として改善に取り組みたい。

以上

### <薬学部>

#### 【対象科目の選定】

本学に勤務する教員（非常勤講師を含む）当たり1科目について、前期・後期のいずれかで調査する方針に従い、薬学科では前期29（数字）科目、後期17（数字）科目について調査を行った。

#### 【授業評価調査結果に対する点検】

評価結果の分析：教員の授業評価に関する7項目は、教員の授業技術的設問と講義内容の妥当性を問う設問で構成されている。7項目の平均は前期授業評価においては4.24、後期においては4.27、前後期での平均4.26であり、本学科の教員の授業技術は十分高いレベルにあると思われる。一方、総合的満足度を問う設問8では前期授業評価においては3.97、後期においては4.02、前後期での平均は4.00であり、授業技術の評価と比べやや低いものの、十分に高い値と考えられる。この総合的満足度を左右する原因は、「学生の自己点検」の結果に表れており、自己学習が標準値の3.0を大

幅に下回り、授業に対する集中力や工夫もやや少なく、質問するなどの積極性も低いなど学修に対する取り組みがやや乏しい感がある。

分析結果を踏まえた改善方策：本学科教員の授業技術について、学生は標準以上の評価をしているが、今後も一層の改善努力を試みる予定である。各教員について自由記述についても学生の独断的少数意見の可能性もあるが、それらも含め各項目について点検し、十分留意されるよう学科長が口頭で促した。

#### 【学生の自己点検調査結果に対する点検】

点検結果の分析：集計結果については、前期分で 3.62、後期分で 3.70、前後期分での平均で 3.66 であり、一部、標準値 3.0 を下回る項目もあった。学生自身が自戒を込めて真摯に回答した結果であると判断されるが、最近の本学学生の学修に対する意欲や自身が持つ学力とが反映していると推定される。

分析結果を踏まえた改善方策：学生が学修に対する意欲を持ち、その必要性を実感し、自ら学ぶ態度を身につける必要がある。この課題を達成することは極めて難しいものと考えられるが、本学への受験時や入学当初は大学での学修に対する意欲があったと考えられたため、この意欲を長く保持できるように、これまでの通常授業や補習授業方法に加え、やや異なる教育方法（PBL や SGD、メンター制や TA 制）の採用も有効策と考えられる。

#### 【教員へのフィードバックについて】

アンケート集計結果は、学科教員全員に対して前期分及び後期分の全ての集計結果をフィードバックしている。対象科目担当教員には、それを基に授業アンケート実施報告書の提出を求め、提出率は 100% であった。学生に対するフィードバックは前期および後期終了までに実施するように学科長から要請し、実施された。

#### 【学生へのフィードバックについて】

学生に対するフィードバックは講義の最終回、または定期試験実施時に当該授業科目担当教員が行った。その旨は提出された報告書に記載している。

#### 【学科教員からの提案、意見】

各教員より提出された授業アンケート実施報告書（添付）より、有用な提案や提起された問題を以下に要約する。

- ①科目によっては複数教員が担当しているため、アンケート実施時期と授業担当時期が解離する場合があります、アンケート用紙の早めの配布を希望する。
- ②授業に対するアンケートが前回や当日の感想になっている感があり、その科目の授業全般に対するアンケートになるような工夫があればと思う（例：実施時期を定期試験直前にする等）。
- ③本アンケートと学生の成績（学力）との相関がチェック出来ればと思う。

#### 【総括】

今回のアンケート調査は、本学科における授業の実施と学生の成果が良く反映した結果が得られたと考えている。今後は更なる評価の上昇に向け、また学生の修学力の増加、質的向上のため、本評価から見出された個々の問題の解決に向けた改善をするよう求めたい。また、より明確な評価を得るため、上記授業アンケート並びに実施についての「意見・提案」も一部参考にしながら改善に努めたい。

## 5. 授業担当教員の報告書

授業評価を受けた各教員より提出された報告書を次頁以下に添付する。

(ただし、ホームページでは省略)

以上